

授業科目名： 人間形成とキャリア 教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺本 妙子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標： 現代社会に生きる青年の特徴と課題について、心理学の知見を踏まえて理解し、キャリア形成の特徴とキャリア教育について理解を深める。生涯発達における青年期の位置づけや、青年期の心のしくみ、現代社会を生きる課題とキャリア形成、人間関係形成と社会参画、キャリア教育の意義と課題について理解する。公民科「公共」における青年期の課題、「倫理」における心理学に関する事項（個性、感情、認知、発達）と関連付けながら、キャリア教育について多面的な理解を深め、キャリア教育のカリキュラム案を考案することができる。			
授業の概要： 授業の前半では、青年期の特徴と発達課題、青年期の心のしくみ、青年期における自己と社会について理解を深める。自らの体験などの振り返りを踏まえて、授業の後半では、キャリア形成とキャリア教育についての理解を深める。特別な教育的ニーズとの関連や海外の動向も踏まえ、多面的な思考に基づいたキャリア教育のカリキュラム案を考案する。			
授業計画 第1回 イントロダクション：本授業の目標について理解し、生涯発達における青年期の位置付けについて理解を深める。導入的活動（個人ワーク、グループワーク）をおこなう。 第2回 青年期の特徴と発達課題：青年期に関する代表的な理論について理解する。青年期の発達課題、自己形成、近年注目される新しい自己観について理解を深める。 第3回 青年期の心のしくみ①：個性（パーソナリティを含む）と感情について心理学的な理解を深め、自己理解、他者理解、適応、学習との関連や、個人差と多様性、および、共通性について理解する。 第4回 青年期の心のしくみ②：認知と発達について心理学的な理解を深め、自己理解、他者理解、適応、学習との関連や、個人差と多様性、および、共通性について理解する。 第5回 青年期における自己と社会：これまでの授業を踏まえ、現代社会における青年期の諸課題について理解する。アイデンティティの問題、友人や家族との葛藤、学習と自分、将来の自分に対する期待と不安など、具体的なテーマに即して多面的に思考し、青年期における自己と社会の関係について理解を深める。 第6回 演習①：これまでの授業を踏まえて、自らの体験などを振り返る。 第7回 演習②：自らの体験などの振り返り（リフレクション）を受講者間で共有し、今後の人生計画（将来展望）や自らのキャリア形成について集団討議する。受講者間の意見交流を通じて、キャリア教育の意義と課題について理解を深める。 第8回 現代社会におけるキャリア形成、人間関係形成と社会参画：働くことや社会参画、および、キャリア開発の意義と課題について理解する。人間関係形成と社会参画、職業選択、仕事と生活の調			

<p>和（職業キャリアとライフ・キャリア）について理解を深め、キャリアデザインにおける課題について集団討議し、問題解決的な思考を通じて改善策・解決策を提案する。</p> <p>第9回 キャリアの理論：代表的なキャリアの理論について理解を深め、現代社会におけるキャリア形成の特徴とキャリア教育との関連性について理解する。</p> <p>第10回 キャリア教育：キャリア教育の基本的事項（導入の背景、目的、内容）、キャリア教育を通して育成する基礎的・汎用的能力について理解し、キャリア教育の中核を担う「公共」、特別活動、各教科等との関連性について理解を深める。</p> <p>第11回 特別な教育的ニーズとキャリア教育：障がい、貧困、外国にルーツを持つなどの特別な教育的ニーズを伴うキャリア教育について理解を深める。関連する制度や取組における課題について集団討議し、問題解決的な思考を通じて改善策・解決策を提案する。</p> <p>第12回 海外のキャリア教育：諸外国の取組について理解し、国際比較を通じて日本のキャリア教育を相対化して理解する。具体的な課題を見出して集団討議し、問題解決的な思考を通じて改善策・解決策を提案する。</p> <p>第13回 演習③：現代社会の特徴や課題（情報化、グローバル化、格差拡大など）、および、地域の特徴や課題に留意し、キャリア教育のカリキュラム案を考案する。</p> <p>第14回 演習④：考案したカリキュラム案を全体共有し、受講者間で相互評価する。</p> <p>第15回 総合考察：これまでの学びについて振り返り、この授業で修得したことを意識化し、自らの学びの意味付けを行う。</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年7月 文部科学省）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>新版キャリア教育概説（2020年 日本キャリア教育学会（編） 東洋館出版社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業の取組（グループワーク、発表）（40%）、ワークシート（20%）、レポート（40%）</p>

授業科目名： ESD-SDGs特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田 俊幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> SDGsの理念やその内容を理解し持続可能な社会を実現できるような学びとなる単元開発ができるようになる。 人や社会、人と自然との関わりを基盤として、持続可能な社会の実現に向けた学習を考えることができるようになる。 学校と地域や外部機関が、連携協力もしくは協働参加による取組を検討して学習を立案できるようになる。 SDGs及びESDの重要性や課題について考えることができるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>義務教育課程で教諭及び教頭として、教科教育並びに各種領域に関わる教育活動に従事していた実務経験を活かして学習に活用できる内容を扱う。</p> <p>SDGsの特質を確認した上で、現代的な課題を取り上げて持続可能な社会の実現に向けてSDGsが果たす役割やその学習に必要性を学ぶ。受講生が、SDGsと現代的な課題を関連させて、持続可能な社会の実現に向けた学習を実感できるような単元開発を試みる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【オリエンテーション】SDGs及びESDとの関連について考える。</p> <p>第2回：【水問題：水・衛生】水質汚濁、水質汚染問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第3回：【エネルギー問題：エネルギー】エネルギー問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第4回：【ごみ問題：持続可能な消費と生産】ごみ問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第5回：【地球温暖化、気候変動問題：気候変動】気候変動問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第6回：【生物多様性の問題：海洋資源・陸上資源】生物多様性の問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第7回：【減災・防災：持続可能な都市・インフラ、産業化、イノベーション】減災・防災の問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第8回：【南北問題・国際理解：不平等】南北問題・国際理解とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p> <p>第9回：【貧困・飢餓・平和問題：貧困・飢餓・平和】貧困・飢餓・平和問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。</p>			

第10回：【ジェンダー・人権問題：ジェンダー】ジェンダー・人権問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。

第11回：【保健・福祉問題：保健】保健・福祉問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。

第12回：【キャリア問題：経済成長と雇用】キャリア問題とSDGs関係を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取組を考える。

第13回：【SDGsに関わる単元開発①】SDGsに関わる単元開発をする。

第14回：【SDGsに関わる単元開発②】SDGsに関わる単元開発をする。

第15回：【単元開発の発表とまとめ】作成した学習単元の発表をするとともに授業のまとめをする。

定期試験は実施しない

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

・文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（平成29年3月告示）（平成30年3月告示）

・文部科学省『中学校学習指導要領解説』『高等学校学習指導要領解説編』（平成29年3月告示）（平成30年3月告示）

・蟹江憲史：SDGs『持続可能な開発目標』（中公新書）、2020年

・佐藤直久他『SDGsと環境教育』（学文社）2017年

・田中治彦他『SDGsと開発教育』（学文社）2018年

・田中治彦他『SDGsカリキュラムの創造』（学文社）2019年

学生に対する評価

○ 教材開発と指導計画の発表 総合点の40% ○ 日常の課題への取り組み 総合点の20%

○ 課題レポート 総合点の40%

授業科目名： 国際バカロレア特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 勝治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際バカロレア（IB）の「個人と社会」（社会科・地理歴史・公民に相当する教科）のうち中等教育プログラム（MYP）とディプロマプログラム（DP）の公民に関わる学びの特質を理解する。 学習指導要領の改訂に伴う学びの転換とも関連させながら、IB教育の枠組みや視点を日本の高等学校における公民にどのように活かすことができるのかを具体的に検討する。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> IBの使命、学習者像、ATL（学習のアプローチ）、ATT（指導のアプローチ）などIB教育の枠組みが公民の授業において具体的にどのように活用されているのか考察する。 「MYP個人と社会」のねらい、「概念」と「文脈」から問い（探究課題）の設定する単元設計の手法、「DP経済」等と「公共」「政治経済」との比較対比、などを取り上げ、「主体的・対話的で深い学び」を促す構成主義に基づく授業を実際に体験し、公民教育（公民学習）のあり方について検討を加える。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション…授業の概要、評価方法、受講学生の小学校～高校時代（特に高校時代）の社会科（公民的分野）に関わる学習に関して振り返り、社会科嫌いの生徒（学生も）がどのようにすれば興味を持てるようになるか議論する。</p> <p>第2回：IB教育の概要～国際標準の教育としてどのような仕組みがあるか？～</p> <p>第3回：IBの「個人と社会」の概要～MYPとDPの「個人と社会」では何を目指しているか？～</p> <p>第4回：「MYP個人と社会」のねらいと評価～日本の社会・地理歴史・公民との違いは？～</p> <p>第5回：「MYP個人と社会」の単元設計～MYPの単元プランナーで単元設計すると社会・公民の学習はどのように変わってくるか？～</p> <p>第6回：「MYP個人と社会」の「経済」と「政治学・公共・行政学」の「関連概念」～概念は政治・経済等の学習においてどのように重要か？～</p> <p>第7回：「MYP個人と社会」の「哲学」と「世界の宗教」の「関連概念」～概念は倫理等の学習においてどのように重要か？～</p> <p>第8回：「MYP個人と社会」における問い～「主要概念」・「関連概念」・「グローバルな文脈」から公民に関わるどのような問い（探究課題）が設定できるか？～</p> <p>第9回：「MYP個人と社会」と「公共」～MYPの枠組みを用いると、どのような「公共」の単元設計ができるのか？～</p> <p>第10回：「DP経済」の主要概念～概念理解は経済の学習においてどのように重要か？～</p>			

第11回：「DP経済」と「政治・経済」～どのような共通点と相違点があるのか？～

第12回：「DP TOK（知の理論）」の「知識の領域：人間科学」～人文科学や社会科学の「知識」の特徴は？～

第13回：「DP TOK（知の理論）」の「知識と政治」～政治に関わる「知識」の特徴は？～

第14回：「DP TOK（知の理論）」の「知識と宗教」～宗教に関わる「知識」の特徴は？～

第15回：まとめ～IBのプログラムは日本の社会科教育（公民教育）にどのように活かせるか？～

定期試験は実施しない

テキスト

『国際バカロレア教育と教員養成』（東京学芸大学国際バカロレア教育研究会編、学文社）、
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 公民編（
平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

『国際バカロレア教員になるために～TOKとDP6教科の学びと授業づくり～』（半田淳子編、大修館書店）、
『中等教育社会科教師の専門性育成』（荒井正剛編、学文社）、他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業中の成果物（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名： 中等社会科探究学習論 I（地理歴史領域）	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校地理歴史） 選択科目（中学校・高等学校公民）	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内 裕一、山本 勝治 担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校社会、高等学校地理歴史及び公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等社会科（中学校社会および高等学校地理歴史科・公民科の総合的視点）において、どのような形で探究学習を実践することができるか、具体的な単元計画や学習指導に即して検討する。 ・国際バカロレア（IB）の「指導のアプローチ（Approaches to teaching）」を参考にしながら、探究を促す問いの設定や評価のあり方などについて検討する。 ・学習指導要領の改訂に伴う学びの転換とも関連させながら、IB教育の枠組みや視点を日本の中学校や高等学校の社会科系の学習に活かす方策を見いだすことを目標とする。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な探究学習の例を取り上げ、どのように思考力を高めているのか考察する。 ・IBの使命、学習者像、「学習のアプローチ（Approaches to learning）」などIB教育の枠組みが、日本の中学校社会科、高等学校地理歴史科・公民科の授業において具体的にどのように活用できるのか検討する。 ・IBの中等教育プログラム（MYP）やディプロマプログラム（DP）の「個人と社会」（中学校社会科、高等学校地理歴史科・公民科に相当する教科）においてどのように探究学習が実現しているか、その仕組みと総合性について理解する。 ・「主体的・対話的で深い学び」を促す構成主義に基づく授業を実際に体験し、社会科教育のあり方について議論する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション…授業の概要、評価方法、受講学生の小学校・中学校・高校時代（特に高校時代）の社会科学習に関して振り返り、社会科嫌いの生徒（学生も）がどのようにすれば社会科に興味を持てるようになるのかについて議論する。 (担当：竹内 裕一、山本 勝治)</p> <p>第2回：探究課題の設定 ～どのような「問い」が議論を促すのか？～ (担当：竹内 裕一)</p> <p>第3回：知識の性質 ～概念の理解がなぜ重要なのか？～ (担当：竹内 裕一)</p> <p>第4回：文脈を意識した理解 ～具体的な事象（内容）をどのように位置づけて思考しているのか？～ (担当：竹内 裕一)</p>			

第5回：学習と評価の一体化 ～どのような評価方法が思考力を高めるのか？～

(担当：竹内 裕一)

第6回：「MYP個人と社会」の単元設計 ～「逆向き設計」がどのように探究を促すのか？～

(担当：山本 勝治)

第7回：「MYP個人と社会」の問いの設定 ～概念と文脈からどのように問いを設定するか？～

(担当：山本 勝治)

第8回：「DP歴史」の目標と探究 ～歴史的探究がどのように汎用性ある学びにつながるのか？～

(担当：山本 勝治)

第9回：「DP歴史」の問いの設定 ～問いに答えるためにどのように議論を構成するのか？～

(担当：山本 勝治)

第10回：「DP知の理論 (TOK)」の問い ～私たちはどのように「知る」のか？～

(担当：山本 勝治)

第11回：「DP知の理論 (TOK)」の「知識の領域」～人文科学や社会科学の思考の特徴は？～

(担当：山本 勝治)

第12回：時事問題について①～プレゼン準備：問いを設定し問題提起する～

(担当：竹内 裕一)

第13回：時事問題について②～プレゼンおよび議論～

(担当：竹内 裕一)

第14回：時事問題について③～プレゼンと議論の振り返り：どの程度議論が深まったのか？～

(担当：竹内 裕一)

第15回：まとめ～どのようにすれば生徒が楽しく探究する社会科学習を実現できるのか？～

(担当：竹内 裕一、山本 勝治)

定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『社会の危機から地域再生へ～アクティブ・ラーニングを深める社会科教育～』（坂井俊樹編、東京学芸大学出版社）、『探究的世界史学習の創造』（田尻信壹著、梓出版社）、『国際バカロレア教育と教員養成』（東京学芸大学国際バカロレア教育研究会編、学文社）、『歴史教育「再」入門～歴史総合・日本史探究・世界史探究への挑戦～』（前川修一他編、清水書院）、『「地理総合」の授業』（大野新・竹内裕一編 大月書店、2021年）他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業中の成果物（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名： 中等社会科探究学習論 Ⅱ（公民領域）	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校公民） 選択科目（中学校・高等学校地理歴史）	単位数： 2単位	担当教員名： 土屋 陽介、西山 溪 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校社会、高等学校地理歴史及び公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、国内外の探究的な学習方法のいくつかを紹介し、その方法論を体験を通して学ぶ。それらの学習方法が採用されている各地域の地理的・歴史的背景を理解した上で、そうした探究的な学習方法を日本の中等社会科（主として公民分野）の授業の中に取り入れるための方法を検討する。</p> <p>探究的な学習方法とはなにかを理解した上で、受講生が探究的な学習方法を取り入れた中等社会科の授業づくりを行えるようにすることが、本授業の到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>探究的な学習方法とはなにかについて理解を深めた上で（第1回）、海外の中等教育において取り組まれている探究型の哲学・倫理学教育を検討する（第2回～第6回）。海外で行われている手法を実際に体験した上で、その理論的背景およびそうした学習方法が求められている地理的・歴史的背景について学び、そうした教育手法が依拠する探究学習観を明らかにする。</p> <p>次に、政治・経済分野に関わる探究型学習について理解を深める（第7回～第11回）。具体的には、スウェーデンの投票教育と、より熟考した上での投票を促す政治理論である熟議民主主義および熟議型世論調査について、その理論的・地理的・歴史的背景を学んだ上で、受講者ととともに政党マニフェストの比較と熟議を通じた模擬投票に関する体験型授業を行う。さらに、このような海外の実践を日本の中等社会科教育に応用する方法と、その際の注意点についても検討する。</p> <p>授業の後半では、ここまでに学習・体験してきた海外の探究学習法を踏まえて、日本の中等社会科の授業の中に探究的な学習方法を取り入れるための具体的な方法を受講生自身が主体的に考える（第12回～第15回）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入…探究的な学習方法とはなにか？ （担当：土屋 陽介）</p> <p>第2回：子どもの哲学（1）…アメリカで開発されて世界各地で取り組まれている「子どもの哲学（Philosophy for Children: P4C）」を体験し、対話を軸とした探究型の哲学・倫理学教育について、そのような教育が求められている各地域の地理的・歴史的背景を踏まえて理解する。 （担当：土屋 陽介）</p> <p>第3回：子どもの哲学（2）…子どもの哲学の教育理論を分析し、子どもの哲学における探究学習観を</p>			

明らかにする。

(担当：土屋 陽介)

第4回：子どもの哲学 (3) …子どもの哲学の学習方法を取り入れた中等社会科 (公民分野) の授業について、海外で作成された教科書と授業記録の分析を通して具体的に理解する。

(担当：土屋 陽介)

第5回：フランスの哲学教育 (1) …フランスのリセ (後期中等教育機関) で行われている哲学・倫理学教育について概観する。リセで哲学・倫理学教育が行われるようになった歴史的背景を分析する。フランスの大学入学資格試験である「バカロレア試験」における「哲学」の問題を体験する。

(担当：土屋 陽介)

第6回：フランスの哲学教育 (2) …リセで取り組まれている探究型の哲学・倫理学教育を体験し、子どもの哲学や日本の高校公民科倫理との共通点・相違点について検討する。

(担当：土屋 陽介)

第7回：ヨーロッパ諸国の政治教育

…スウェーデンの教師用手引き書の読解を通して、ヨーロッパ諸国の政治教育の特徴を、地理的・歴史的背景を踏まえて理解する。

(担当：西山 溪)

第8回：熟議民主主義の理論と熟議型世論調査を応用した教育実践。

(担当：西山 溪)

第9回：探究型選挙教育の実践 (準備編) …新聞と政党マニフェストを比較検討する。

(担当：西山 溪)

第10回：探究型選挙教育の実践 (実践編) …受講者による熟議と模擬投票を行う。

(担当：西山 溪)

第11回：日本における政治教育…政治的中立性と教師の位置付けを考える。

(担当：西山 溪)

第12回：探究的な学習方法を取り入れた中等社会科の授業づくり (1)

…単元を選択し、教材研究を行う。探究的な学習方法の取り入れ方を検討する。

(担当：西山 溪)

第13回：探究的な学習方法を取り入れた中等社会科の授業づくり (2)

…ICT機器等も活用して授業用の資料を作る。簡易版の学習指導案を作成する。

(担当：西山 溪)

第14回：探究的な学習方法を取り入れた中等社会科の授業づくり (3)

…簡易版の学習指導案を発表し合い、相互評価を行う。評価の高かった学生の指導案に基づいて、探究的な学習場面を中心とした模擬授業を行う。

(担当：西山 溪)

第15回：まとめ・・・中等社会科の授業の中に探究的な学習方法を取り入れる意義について。

(担当：土屋 陽介)

定期試験は実施しない

テキスト

指定教科書は使用しない。

参考書・参考資料等

土屋陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』青春出版社、2019年。

マシュー・リップマン（他）『子どものための哲学授業：「学びの場」のつくりかた』河野哲也（他）監訳、河出書房新社、2015年。

坂本尚志『バカロレア幸福論』星海社、2018年。

スウェーデン若者市民社会庁『政治について話そう！スウェーデンの学校における主権者教育の方法と考え方』両角達平（他）訳、アルパカ、2021年。

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説：公民編』

学生に対する評価

平常点（探究的な学習活動への参加・簡易版学習指導案の作成・授業後に提出するリアクションペーパー）（60%）、レポート（40%）に基づき、総合的に評価する。

授業科目名： 中等社会科教材論 I (地理歴史領域)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野本 禎司
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校社会、高等学校地理歴史及び公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校において地理・歴史を学ぶ意義を理解し、子どもたちの「地域」に対する理解を深めるために、社会科の教師として地域教材を開発・活用する能力を養うことを目標とします。			
授業の概要 中学校・高等学校において地理・歴史を学ぶ意義を確認した上で、特定の地域（下総地域）やテーマを対象に、地域調査の基本的方法を習得し、地域史として、また日本史全体の歴史展開と位置づけて紹介し、それぞれの時代における政策的観点や現代の北総地域社会との繋がりも踏まえながら、地域教材としての活用を考察していきます。			
授業計画 第1回：ガイダンス 地域素材を用いた社会科の授業の意義 第2回：地域素材を用いた歴史授業（1）—新田開発 小金牧、手賀沼、江戸時代の新田開発、開拓碑 現地（戸張）を実際に歩き、新田開発の特徴（土地割など）や現在の地域社会への影響などを、北総台地の自然条件の特色なども踏まえた上で考察する 第3回：地域素材を用いた歴史授業（2）—水害の歴史 利根川の水害、堤防、江戸時代の土木技術 歴史を学ぶことが減災につながることを、政策的な観点も交えながら考察する 第4回：地域素材を用いた歴史授業（3）—名所① 手賀沼、布施弁天、あけぼの山（桜植樹）、地誌、旅行記 江戸名所の成立過程を考察しながら、地域の文化遺産の教材活用について話し合う 第5回：地域素材を用いた歴史授業（4）—名所② 文化財、石碑 布施弁天周辺のフィールドワークをおこない、地域の文化遺産の教材活用について話し合う 第6回：地域素材を用いた歴史授業（5）—小金牧 野生馬、鷹場、鹿狩絵図 古文書や絵図などの歴史資料を活用する効果を話し合う 第7回：地域素材を用いた歴史授業（6）—軍用地 陸軍飛行場など、戦後の利用、開拓民の入植 戦争が地域に与えた影響を理解し、その記録や記憶の伝え方を話し合う			

第8回：博物館の活用（1）—地域博物館

柏市郷土資料展示室の見学
地域史の叙述の仕方を話し合う

第9回：博物館の活用（2）—国立博物館

国立歴史民俗博物館の見学
日本史全体の歴史と地域史との関係の説明の仕方を話し合う

第10回：博物館の活用（3）—博学連携

伊能忠敬記念館の校外学習の受け入れ方を学ぶ
同館のワークシートを体験し、その有効性を話し合う

第11回：人物を素材とした授業（1）—小柳七郎

鉄道、柏駅の開設、近代化、「小柳町通り」
人物に関わる地名から地域の歴史を掘り下げ、現代の地域社会の形成と地域の歴史との繋がりを具体的に理解する

第12回：人物を素材とした授業（2）—吉田甚左衛門

行楽地化、競馬場、ゴルフ場、吉田家文書
江戸の名所化との違いを話し合う

第13回：文化財の活用（1）—旧吉田家住宅（国指定文化財）

旧吉田家住宅（国指定文化財）の見学
日本の伝統家屋の特徴を考察し、現代の地域社会の中に文化財を残す意義を検討する。

第14回：文化財の活用（2）—松ヶ崎城跡（市指定史跡）

古墳の転用、中世期の地域社会
地図を用いて城の縄張りをフィールドワークする、地図の活用法を話し合う
社会教育政策の観点から、文化財の保存と現地の環境保全の両立のあり方についても考察する。

第15回：授業内で説明した地域教材の振り返り

地域教材を用いた学習指導案の作り方、教材研究のあり方について話し合う

定期試験

テキスト

レジュメ・参考資料の印刷物を配布します。

参考書・参考資料等

文部科学省編『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（東洋館出版社、2018年）
文部科学省編『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（東洋館出版社、2019年）

坂井俊樹ほか編『社会科教育の再構築をめざして—新しい市民教育の実践と学力』（東京学芸大学出版会、2009年）

このほか適宜授業の中で紹介します。

学生に対する評価

平常点（40%）、期末試験（60%）

授業科目名： 中等社会科教材論Ⅱ（公民領域）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土屋 陽介、西山 溪 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校社会、高等学校地理歴史及び公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、中等社会科（主として公民分野）の教育のあり方を「教材」の観点に着目して掘り下げる。国内外の中等社会科教育で用いられている独自の教材と教育実践を検討することで、教科書だけにとらわれない幅広い（地理・歴史・公民の各領域を横断するような）教材研究の視点を獲得することと、日本の中等社会科教育で標準的に用いられている教材のあり方を相対化する柔軟な姿勢を身につけることが、本授業の到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>最初に、「教材」に注目して社会科教育を考えることの意義を検討する（第1回）。</p> <p>次に、高校公民科「公共」「倫理」「政治・経済」および中学校社会科「公民的分野」のそれぞれについて、日本の検定教科書のいくつかを例に取り上げて内容を検討した上で、それと対比する形で海外および国内で独自に開発されている教材と教育実践を紹介・検討する（第1回～第12回）。独自教材の内容を単に知識として理解するだけでなく、その教材を用いた授業実践を実際に体験し、独自に開発された教材が中等社会科の内容を学ぶ上でどのような意味で効果的であるかを、受講生自身が主体的・批判的に考察できるようにする。</p> <p>授業の後半では、ここまで学習・体験してきた独自の教材と教育実践を踏まえて、そうした教材・授業実践を参考にした中等社会科の授業研究を自分自身で行うための具体的な方法を受講生自身が主体的に考える（第13回～第15回）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入…「教材」に注目して社会科教育を考えることの意義について。 (担当：土屋 陽介)</p> <p>第2回：政治教育と教師の役割について考える…高校公民科「公共」の教科書を検討する。 (担当：西山 溪)</p> <p>第3回：スウェーデンの模擬投票実践…『教師用手引き』を検討するとともに、模擬投票の教育実践がスウェーデン社会においてなぜ必要とされているのかについて、地理的・歴史的背景も踏まえつつ理解する。 (担当：西山 溪)</p> <p>第4回：日本の模擬投票実践…副教材『私たちが拓く日本の未来』を検討する。 (担当：西山 溪)</p> <p>第5回：哲学は「知識」か？「思考法」か？…高校公民科「倫理」の教科書を検討する。 (担当：土屋 陽介)</p>			

第6回：海外の中等教育における哲学・倫理学教材・・・『リサ』『マーク』『中学生からの対話する哲学教室』を検討するとともに、対話型の哲学教育実践が海外の様々な地域においてなぜ取り組まれているのかについて、各地の地理的・歴史的背景も踏まえつつ理解する。

(担当：土屋 陽介)

第7回：思考実験を取り入れた哲学・倫理学授業・・・「トロッコ問題」等の思考実験を活用した日本の高校公民科の授業実践を検討する。

(担当：土屋 陽介)

第8回：エシカル消費を考える・・・中学校社会科および高校公民科「政治・経済」の教科書を検討する。

(担当：西山 溪)

第9回：フィンランドの消費者教育・・・教科書『あなた自身の社会』を検討する。

(担当：西山 溪)

第10回：日本の消費者教育・・・浜松市の先端事例と教材から考える。

(担当：西山 溪)

第11回：社会の問題の民主的な解決方法を探る・・・中学社会科および高校公民科「公共」の教科書を検討する。

(担当：西山 溪)

第12回：法教育の観点からのルールづくり実践から考える・・・日本の中学校社会科における授業実践を検討する。

(担当：西山 溪)

第13回：国内外の教材および授業実践を参考にした中等社会科の授業づくり (1)

・・・単元を選択し、教材研究を行う。地理・歴史・公民の各領域の観点を複合的に取り入れるための教材の効果的な取り扱い方を検討する。

(担当：土屋 陽介)

第14回：国内外の教材および授業実践を参考にした中等社会科の授業づくり (2)

・・・ICT機器等も活用して授業用の資料を作る。簡易版の学習指導案を作成する。

(担当：土屋 陽介)

第15回：国内外の教材および授業実践を参考にした中等社会科の授業づくり (3)

・・・簡易版の学習指導案を発表し合い、相互評価を行う。評価の高かった学生の指導案に基づいて、独自の教材を使用する場面を中心とした模擬授業を行う。

(担当：土屋 陽介)

定期試験は実施しない

テキスト

指定教科書は使用しない。

参考書・参考資料等

スウェーデン若者市民社会庁『政治について話そう！スウェーデンの学校における主権者教育』

の方法と考え方』両角達平（他）訳、アルパカ、2021年。

総務省『主権者教育のための学習教材』

(https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/gakusyu/index.html)

早稲田大学マニフェスト研究所『実践 学校模擬選挙マニュアル』ぎょうせい、2016年。

シャロン・ケイ、ポール・トムソン『中学生からの対話する哲学教室』河野哲也監訳、玉川大学出版部、2012年。

アーネ・リンドクウィスト、ヤン・ウェステル『あなた自身の社会』川上邦夫訳、新評論、1997年。

浜松市消費者教育中学校用教材集

(<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kurashi/kyouzai-junior-high.html>)

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説：公民編』

学生に対する評価

平常点（国内外の教材を使用した授業体験への参加・簡易版学習指導案の作成・授業後に提出するリアクションペーパー）（60%）、レポート（40%）に基づき、総合的に評価する。

授業科目名： 比較教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木 織恵
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校社会、高等学校地理歴史及び公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 子どもの学力や学びの在り方や教師を取り巻く環境を国際比較することで日本の教育の特徴を理解する。</p> <p>2. 諸外国の教育改革の動向を理解し、日本の教育への影響や示唆を考える。</p> <p>3. 海外の教育と日本の教育の比較を通して、現代における教育の課題を考える。</p>			
授業の概要			
<p>はじめに世界の教育の動向をSDGsと関連付けながら概観する。そのうえでユネスコやOECDといった国際機関が提示する国際的なレポートや、北欧、アングロサクソン諸国、ヨーロッパ、途上国といった諸外国の教育動向を紹介し、日本の教育の特徴や課題を考えさせる。さらに各国に共通する現代の教育の課題を議論する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：【オリエンテーション】諸外国との比較から日本の教育を相対的に捉える。</p> <p>第2回：【日本の教育の特徴】市川昭午「日本教育の特質」『教育改革の理論と構造』（教育開発研究所）を手がかりに諸外国と比べ日本の教育がどのような特徴を持っているのか検討する。</p> <p>第3回：【世界の教育目標】2015年までの国際目標「万人のための教育（EFA）」と、2030年までの国際目標「SDGs」の目標4について、その変遷の経緯や内容の違いを理解する。</p> <p>第4回：【世界の教育の状況】ユネスコが発行しているグローバル・モニタリングレポート（GMR）を基に、世界の教育の状況と取り組みについて学ぶ。</p> <p>第5回：【国際学力調査と各国の学力政策】OECD生徒の学習到達度調査（PISA）、国際成人力調査（PIAAC）などの結果をどう読むか、その影響など、学力の国際比較が持つ意味を考える。</p> <p>第6回：【世界の教員政策】OECD国際教員指導環境調査（TALIS）を手がかりに、日本の教員環境を国際的な文脈に位置付ける。</p> <p>第7回：【世界の子育てと幼児教育】OECD保育白書（Starting Strong I-V）等を手がかりに、日本の子育てと幼児教育を国際的な文脈に位置付ける。</p> <p>第8回：【教育制度・教育改革の比較】世界の教育制度や教育改革動向について、文部科学省の報告や、OECDの図表で見る教育（Education at a Glance）等をもとに知る。</p> <p>第9回：【福祉国家の教育】高福祉・高学力国としてよく紹介される北欧諸国（フィンランドなど）を題材に、その教育の長所と短所、および日本への示唆を考える。</p> <p>第10回：【NPM型教育改革】アメリカやイギリスなどアングロサクソン諸国におけるNPM型教育改革を題材に、その教育の長所と短所、および日本への影響を考える。</p>			

第11回：【ヨーロッパの教育】移民との共生が目指されるフランスやドイツを題材に、その教育の長所と短所、および日本への示唆を考える。

第12回：【途上国の教育】教育の量と質の確保が課題であるアジアやアフリカ諸国における教育支援の現状を知り、日本と共通する課題を考える。

第13回：【学力格差】『学力格差是正策の国際比較』を読み、世界各国で学力向上のためにどのような取り組みがされているのかを知る。

第14回：【持続可能な開発のための教育】地球環境問題、武力紛争、平和、人権、開発、食、仕事、などグローバル・イシューを、「持続可能性」という観点で捉え、教育とのかかわりについて考える。

第15回：【各国比較の発表とまとめ】関心を持った国の教育制度や教員・子どもの実態を調べて、日本の教育と比較をし、授業のまとめをする。

定期試験は実施しない

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

- ・志水 宏吉・山田 哲也『学力格差是正策の国際比較』（岩波書店）、2015年
- ・市川昭午『教育改革の理論と構造』（教育開発研究所）、1990年
- ・北村友人他『SDGs時代の教育』（学文社）、2019年
- ・内田伸子・浜野隆『世界の子育て格差』（金子書房）、2012年
- ・泉千勢・汐見 稔幸 一見真理子『世界の幼児教育・保育改革と学力』（明石書店）、2008年
- ・国立教育政策研究所『教員環境の国際比較 OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2018調査報告書』（ぎょうせい）、2019年

学生に対する評価

- 各国比較の発表 総合点の40%
- 日常の課題への取り組み 総合点の20%
- 課題レポート 総合点の40%

授業科目名： 教育時事問題	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土井 雅弘
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校英語、国語及び社会、高等学校英語、国語、地理歴史及び公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育に関する時事問題や教育改革の方向性等について理解すると共に、教員の資質能力としての広い視野と幅広い知識、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、中央教育審議会答申や新聞報道、各種統計資料等を用いて、教育に関する時事問題や絶えず進行している教育改革の動向と進捗状況に関する理解を深めつつ、今日の教育を巡って指摘される問題や課題、その対応策等について考察することをねらいとするものである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領が、これからの時代がどのような時代となると想定して定められているかを考え、これからの学校が児童生徒に育てたい資質・能力（三つの柱）について考察し理解する。</p> <p>第2回：学習指導要領で育てる資質・能力（三つの柱）を踏まえ、「令和の日本型学校教育」（答申）とGIGAスクール構想（施策）の概要を理解し、これからの学校教育（授業）で育てたい児童生徒の姿を具体的に考える。</p> <p>第3回：教員の現状、学校の問題点を踏まえた上で、教育振興基本計画、学習指導要領、令和に日本型学校教育、GIGAスクール構想等が目指す学校の姿を捉え、これからの学校や教員の果たすべき役割等を考える。</p> <p>第4回：教育機会確保法を概観しながら、これからの学校や教員の果たすべき役割等について考える。</p> <p>第5回：児童虐待等の実態や子供の貧困問題・対策等を概観しながら、これからの学校や教員の果たすべき役割等について考える。</p> <p>第6回：発達障害者支援法を概観しながら、特別支援教育の視点を重視したこれからの学校や教員の果たすべき役割等について考える。</p> <p>第7回：いじめ防止対策推進法を概観しながら、いじめ対策等、これからの学校や教員の果たすべき役割等について考える。</p> <p>第8回：確かな学力とは何かを明確にした上で、いわゆる学力低下等の実態を踏まえ、その原因と対応について考察し、これからの学校や教員の果たすべき役割等について考える。</p> <p>第9回：体罰、教職員事故等の実態を踏まえ、その原因と対応について考察し、学校や教員が信頼関係に基づく教育を実現するために必要な考え方、在り方、構築の仕方等について考える。</p> <p>第10回：家庭や地域社会の変化の実態を踏まえ、学校や子供に及ぼすその影響を理解した上で、家庭や地域への働きかけと連携を深める学校教育の在り方等について考える。</p>			

第11回：「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（答申）を概観し、チーム学校としてのこれからの学校や教員の果たすべき役割等について考える。

第12回：「学校における働き方改革に関する総合的な取組について」（答申）と「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」（通知）を概観し、これからの学校の果たすべき役割等と教員の働き方について考える。

第13回：「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（答申）を概観し、教員の資質能力について考える。

第14回：教員の働き方改革、教員の資質向上の必要性を踏まえ、これからの教員の資質能力の向上、授業力等を育てる研修の在り方について考察し、教員のあるべき姿を考える。

第15回：授業のまとめとして、これまでの授業内容等を振り返ると共に、各自、教育時事問題に関して学んだことや考えたことを踏まえ、自らの近い将来を見据えて抱負等をまとめる。

定期試験

テキスト

特に使用しない

参考書・参考資料等

『小学校及中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省）、また必要に応じて随時参考資料等を提供する。

学生に対する評価

平常点25%、レポート25%、定期試験50%に基づき、総合的に成績評価を行う。

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永 光雄
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業を通じて、日本国憲法に関する人権や統治機構の基礎的な知識や概念などを学ぶとともに、様々な社会問題について自ら考え、自分の言葉でその見解を述べられるような力を身に付けていくことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、まず、国家の基本法として最も重要な法である憲法について、その基本概念や特徴などについて理解を深めることを目指す。そして、日本国憲法の内容について説明を行うとともに、憲法の歴史や政治・社会との関わりについても触れる。</p> <p>本講義では、政治や社会と関わる問題について憲法観を通じた問題解決力と人権規定の知識が身につけるためのアクティブラーニングを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法とは何か 国家における憲法の役割について。</p> <p>第2回：憲法の基本原理 近代憲法が確立されるまでの経緯について。</p> <p>第3回：日本国憲法の基本原理 人権尊重、国民主権、平和主義について。</p> <p>第4回：天皇 「天皇」の規定について。</p> <p>第5回：人権総論 「幸福追求権・法の下での平等」の規定について。</p> <p>第6回：国民主権と参政権</p> <p>第7回：精神的自由権（1） 思想・良心の自由について。</p> <p>第8回：精神的自由権（2） 表現の自由について。</p> <p>第9回：経済的自由権 職業選択の自由について。</p> <p>第10回：社会権 生存権・教育を受ける権利について。</p> <p>第11回：人身の自由</p>			

第12回：立法権

国会について。

第13回：行政権

内閣について。

第14回：司法権

裁判所について。

第15回：地方自治

住民自治と団体自治について。

定期試験

テキスト

芦部信喜「憲法」

参考書・参考資料等

高橋和之「立憲主義と日本国憲法」

学生に対する評価

試験（50%）、レポート等（50%）

授業科目名： スポーツ実技 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高橋 早苗・上村 孝司
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
多彩なスポーツを経験することにより、身体の高機能を鍛える。また、授業の目標、内容、方法を十分に理解した上で、実践できる能力を身につける。			
授業の概要			
身体活動能力は、30歳代から低下し始める。この身体活動能力低下は、将来疾病や障害につながる危険性が高い。従って、代謝活性の高い10～20歳代のうちに、基礎体力を高め、生涯に渡ってスポーツに親しむ習慣を身につけておくことが大切である。スポーツ実技 I では、卓球、バドミントン、サッカー、バスケットボール等の中学・高校で親しんできたスポーツと、近年急激に普及しつつあるタッチ、フットサル等のスポーツを交互に取り上げる。			
授業計画			
第1回：ガイダンスー今後の学習概要説明後、トレーニング室にて器具の使用方法を学ぶ。			
第2回：体力測定ー自己の体力を知る。			
第3回：体力測定ー自己の体力について強み・弱みを分析する。			
第4回：タッチー概略史について学び、ルールを理解する。			
第5回：タッチーボールに慣れ、仲間とコミュニケーションをとる。			
第6回：タッチー審判法を理解し、ゲームに親しむ。			
第7回：卓球ーその特性や歴史について学び、基本動作を身につける。			
第8回：卓球ー基本ルールを理解し、ゲームに親しむ。			
第9回：ミニテニスー競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
第10回：ミニテニスー審判法を学習し、ゲームに親しむ。			
第11回：サッカーーグラウンドにて、サッカーの基本動作とルールについて理解を深める。			
第12回：フットサルー体育館にて、フットサルとサッカーのルール上の違いについて理解を深める。			
第13回：ウォーキングー速度に変化をつけて心拍数を測定し、速さと心拍数の関係を理解する。			
第14回：バスケットボールの競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
第15回：エアロビックダンスー連の運動動作を実習し、その特徴と注意点を理解する。			
定期試験：平常点評価のため、実施しない。			
テキスト			
使用しない。			
参考書・参考資料等			
ICTを活用して動画を視聴したり、必要に応じてプリントを配布する。			

学生に対する評価

授業に取り組む姿勢(40%)、競技規則理解度(30%)、リーダーシップ(10%)、協調性(10%)、服装(10%)を総合的に評価する。

授業科目名： スポーツ実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋 早苗・上村 孝司
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
多彩なスポーツを経験することにより、身体の多機能を鍛える。また、授業の目標、内容、方法を十分に理解した上で、実践できる能力を身につける。			
授業の概要			
身体活動能力は、30歳代から低下し始める。この身体活動能力低下は、将来疾病や障害につながる危険性が高い。従って、代謝活性の高い10～20歳代のうちに、基礎体力を高め、生涯に渡ってスポーツに親しむ習慣を身につけておくことが大切である。スポーツ実技Ⅱでは、ソフトバレーボール、ユニホッケー等のニュースポーツを体験する他、バスケットボール、バドミントン等の中学・高校で親しんできたスポーツを交互に取り上げる。			
授業計画			
第1回：ガイダンスー今後の学習概要を説明後、体育館にてホームエクササイズを行う。			
第2回：ソフトバレーボールー基礎技術を身につける。			
第3回：ソフトバレーボールー競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
第4回：シッティングバレーボールー障がい者スポーツについて理解を深め、ゲームに親しむ。			
第5回：フットサルー競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
第6回：バスケットボールー競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
第7回：ユニホッケーー歴史的背景を理解し、基礎技術を身につける。			
第8回：ユニホッケーー基本動作を身につけ、ゲームに親しむ。			
第9回：ユニホッケーー競技規則を理解し、審判法を学習する。			
第10回：ジョギングー負担の少ない基本的なジョギングフォームを身につける。			
第11回：ラクロスー歴史的背景を理解し、基礎技術を身につける。			
第12回：ソフトラクロスー競技規則を学習し、ゲームに親しむ。			
第13回：ラクロスー審判法を理解し、ゲームに親しむ。			
第14回：バドミントンーシングルの競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
第15回：バドミントンーダブルスの競技規則を理解し、ゲームに親しむ。			
定期試験：平常点評価のため、実施しない。			
テキスト			
使用しない。			
参考書・参考資料等			
ICTを活用して動画を視聴したり、必要に応じてプリントを配布する。			

学生に対する評価

授業に取り組む姿勢(40%)、競技規則理解度(30%)、リーダーシップ(10%)、協調性(10%)、服装(10%)を総合的に評価する。

授業科目名： 英語 A I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：James Stokes、 James Fromhart、Kate Deaux、John L. Bauman、 金田 民栄 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>In this class, students will develop their listening, speaking and other language skills as well as critical thinking skills, thus building a strong foundation toward more academic work. Students will build on their vocabulary and grammar knowledge as well and become more confident at communicating and expressing their own ideas and opinions in English. (本授業では、リスニング力およびスピーキング力を伸ばすだけでなく、今後のアカデミックな活動の基盤となる論理的思考力を身に着ける。学生は語彙と文法の知識を確立するだけでなく、自らの考えや意見を英語で伝え合い、表現する力を養うことができる。)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>This course aims at improving the communication skills of students focusing more on listening and speaking practice in a series of integrated reading, listening, writing, speaking and grammar activities. Students will practice listening to a variety of English expressions with focus on understanding vocabulary and sentence structures used in the topics of daily matters and in broader social contexts including intercultural communication settings. (本授業を通して、履修生はリスニング、スピーキングの育成に重きをおきつつ、聞く・話す・読む・書く 4 技能と文法を統合的に発展させることをめざす。履修者は、日常的なやり取りやより広い社会的文脈や異文化コミュニケーションなどの場面で用いられる語彙や文型の理解ができることに重点を置きつつ、さまざまな英語表現に触れ聞き取る力を身に着ける練習に従事する。)</p> <p>Classes are conducted in English in accordance with students' levels and interests. Regular attendance, homework, previewing/reviewing, and active participation in class are very important for successful achievement. Active learning without worrying about making mistakes is encouraged. (学生のレベルと関心に合わせた英語による授業。授業への出席、課題提出、予習・復習、授業への積極的な参加が重視される。間違いを気にせず、主体的に授業に取り組むことが望まれる。)</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：Course introduction and self-introduction. (ガイダンス、授業計画および自己紹介)</p> <p>第 2 回：Vocabulary and expressions for Greetings and Lifestyle Talks / Listening and communication activities on Gender and Shopping. (挨拶・生活スタイルに関する語彙と表現 / 買い物行動における性差に関する聴き取り・コミュニケーション活動)</p> <p>第 3 回：Listening for key words in Greetings and Lifestyle Talks / Listening and communication activities on Science of Shopping. (挨拶・生活スタイルに関するキーワードの聴き取り / 買い物の原理に関する聴取・コミュニケーション活動)</p> <p>第 4 回：Vocabulary and expressions for Giving Personal Information and Leisure Talks / Listening and communication activities for content words in Mother Nature Talks. (個人情報やレジャーに関する語彙・表現 / 大自然に関するトークの内容語の聴き取り・コミュニケーション活動)</p> <p>第 5 回：Listening for specific information in Giving Personal Information and Leisure and Preference Talks / Listening and communication activities on Conversation about Mother Nature.</p>			

(個人情報やレジャーの好みに関する会話の中の特定情報の聴き取り / 大自然に関する会話の聴き取り・コミュニケーション活動)

第6回 : Vocabulary, expressions and pronunciation for Talks about Friends and Families, and Making Requests and Asking for Permission / Listening and communication activities on Lecture about Mother Nature. (友人・家族に関する会話や要求・許可のための語彙・表現・発音 / 大自然に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第7回 : Listening for details in Talks about Friends, Family Members and Exchanges in Getting Along / Listening and communication activities on Lecture about Migration. (友人・家族・付き合いに関するトークの詳細の聴き取り / 移民に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第8回 : Reviewing the materials with emphasis on listening activities and critical thinking. (聴き取りを主とした総合復習およびクリティカル・シンキング)

第9回 : Vocabulary, expressions, and pronunciation for Talks about Possessions, Hobbies, and Interests / Listening and communication activities on Lecture about People on the Move. (所持品・趣味・興味に関する語彙・表現・発音 / 人の移動に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第10回 : Listening for key words and specific information in Talks about Possessions, Items and Goods, and Interests / Listening and communication activities on Earth Science Lecture. Listening for Note-taking. (所持品・物品・興味に関するキーワードおよび特定情報の聴き取り / 地球科学に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動 / ノート・テイキングのための聴き取り練習)

第11回 : Grammar, vocabulary, and expressions for Talks about Favorite Things, Interests, Stories, Events, and Accidents. / Listening and communication activities on College Education. (嗜好品・趣味・物語・出来事・事故に関する文型・語彙・表現 / 大学教育に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第12回 : Topic identification in listening to Talks about Favorite Things and Interests and Listening for Ordering of Events in Stories / Listening and communication activities on Lectures about Earth Science. Listening for Note-taking. (嗜好品・興味に関する会話のトピックの特定および物語における一連の出来事の順序の聴き取り / 地球科学の講義の聴き取り・コミュニケーション活動 / ノート・テイキングのための聴き取り練習)

第13回 : Grammar, vocabulary, and expressions in Talks about One's Life and Important Celebrations / Listening and communication activities on the topic of Cooperative Business. (個人の生活や大切な祝い事に関する会話の文型・語彙・表現 / 協同組合に関する話題の聴き取り・コミュニケーション活動)

第14回 : Topic identification in Talks about Ways of Life and listening for Details in Talks about Celebrations and Festivals / Listening and communication activities on the topic of Social Responsibility. (日常生活の話や聞いてのトピックの特定、祝祭に関する話題の詳細の聴き取り / 社会的責任についての聴取・コミュニケーション活動)

第15回：Listening tasks, reviewing and course wrap-up with critical thinking. (聴取活動、復習、まとめおよびクリティカル・シンキング)

定期試験は実施しない

テキスト

Breakthrough PLUS Intro (with Digibook access). Craven, Macmillan. 2017.

Breakthrough PLUS Level 2 (with Digibook access). Miles, Macmillan. 2017.

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition). 2018.

参考書・参考資料等

Supplementary readings and material will be provided by the instructor in class as required.

(補助教材は適宜担当教員により提供される。)

学生に対する評価

Classwork and homework activities (70%), assignments (30%). (授業への積極的な参加及び宿題提出に70%, レポート提出に30%で評価する)

授業科目名： 英語 A II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：James Stokes、 James Fromhart、Kate Deaux、John L. Bauman、 金田 民栄 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>In this class, students will develop their listening, speaking and other language skills as well as critical thinking skills, thus building a strong foundation toward more academic work. Students will build on their vocabulary and grammar knowledge as well and become more confident at communicating and expressing their own ideas and opinions in English. (本授業では、リスニング力およびスピーキング力を伸ばすだけでなく、今後のアカデミックな活動の基盤となる論理的思考力を身に着ける。学生は語彙と文法の知識を確立するだけでなく、自らの考えや意見を英語で伝え合い、表現する力を養うことができる。)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>This course aims at improving the communication skills of students focusing more on listening and speaking practice in a series of integrated reading, listening, writing, speaking and grammar activities. Students will practice listening to a variety of English expressions with focus on understanding vocabulary and sentence structures used in the topics of daily matters and in broader social contexts including intercultural communication settings. (本授業を通して、履修生はリスニング、スピーキングの育成に重きをおきつつ、聞く・話す・読む・書く 4 技能と文法を統合的に発展させることをめざす。履修者は、日常的なやり取りやより広い社会的文脈や異文化コミュニケーションなどの場面で用いられる語彙や文型の理解ができることに重点を置きつつ、さまざまな英語表現に触れ聞き取る力を身に着ける練習に従事する。)</p> <p>Classes are conducted in English in accordance with students' levels and interests. Regular attendance, homework, reviewing/previewing, and active participation in class are very important for successful achievement. Active learning without worrying about making mistakes is encouraged. (学生のレベルと関心に合わせた英語による授業。授業への出席、課題提出、復習・予習、授業への積極的な参加が重視される。間違いを気にせず、主体的に授業に取り組むことが望まれる。)</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：Course introduction and self-introduction. (ガイダンス、授業計画および自己紹介)</p> <p>第 2 回：Vocabulary and expressions for Home, Food, and Drinks Talks / Listening and communication activities on lectures about Designs with Purpose. (住まい・食物・飲み物に関する語彙と表現 / 意匠デザインに関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)</p> <p>第 3 回：Listening for key words in Home, Food, and Drinks Talks / Listening and communication activities on Conversation about Designs with Purpose. (住まい・食物・飲み物に関するキーワード聴取/意匠デザインに関する会話の聴き取・コミュニケーション活動)</p> <p>第 4 回：Vocabulary and expressions for Daily Routines and Rules / Listening and communication activities for content words in Environmental Science Talk. (日々の予定や規則に関する語彙・表現 / 環境科学に関するトークの内容語の聴き取り・コミュニケーション活動)</p> <p>第 5 回：Listening for specific information in Daily Routines and Rules / Listening and communication activities on Inspiring Others to Protect the Environment.</p>			

(日々の予定や規則に関する会話の特定情報の聴き取り / 環境保全の呼びかけに関する会話の聴き取り・コミュニケーション活動)

第6回: Vocabulary, expressions and pronunciation for Talks about Pastimes and Adventures / Listening and communication activities on Being Inspired to Protect the Environment. (余暇や冒険に関する語彙・表現・発音 / 環境保全に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第7回: Listening for details in Talks about Pastimes and Adventures / Listening and communication activities on Plant-based Medicine. (余暇や冒険に関する会話の詳細の聴き取り / 植物由来の医薬品に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第8回: Reviewing the materials with emphasis on listening activities and critical thinking. (聴取を主とした総合復習およびクリティカル・シンキング)

第9回: Vocabulary, expressions, and pronunciation for Talks about Sports and Health / Listening and communication activities about lectures on Traditional and Modern Medicine. (スポーツと健康に関する語彙・表現・発音 / 古来および近年の医薬品に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第10回: Listening for key words and specific information in Talks about Sports and Health / Listening and communication activities on Historical Discovery. Listening for Note-taking. (スポーツと健康に関するキーワードおよび特定情報の聴き取り / 歴史的発見に関する講義の聴き取り・コミュニケーション活動 / ノート・テイキングのための聴き取り練習)

第11回: Grammar, vocabulary, and expressions for Talks about Eating Habits and Comparison / Listening and communication activities on Anthropology. (食生活と比較に関する文型・語彙・表現 / 文化人類学の講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第12回: Topic identification in listening to Talks about Eating Habits and Comparison / Listening and communication activities on Archeology. Listening for Note-taking. (食生活と比較のトピックの特定および聴き取り / 考古学の講義の聴き取り・コミュニケーション活動 / ノート・テイキングの聴き取り練習)

第13回: Grammar, vocabulary, and expressions in Talks about Vacation and The Modern World / Listening and communication activities on the topic of Emotions. (休暇と現代社会に関する会話の文型・語彙・表現 / 感情に関する話題の聴き取り・コミュニケーション活動)

第14回: Topic identification in Talks about Vacation and The Modern World / Listening and communication activities on the topic of Emotions and Personality (休暇と現代社会のトピックの特定および聴き取り / 感情と性格についての講義の聴き取り・コミュニケーション活動)

第15回: Listening tasks, reviewing and course wrap-up with critical thinking. (聴き取り活動、復習、まとめおよびクリティカル・シンキング)

定期試験は実施しない

テキスト

Breakthrough PLUS Intro (with Digibook access). Craven, Macmillan. 2017.

Breakthrough PLUS Level 2 (with Digibook access). Miles, Macmillan. 2017.

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition). 2018.

参考書・参考資料等

Supplementary readings and material will be provided by the instructor in class as required.

(補助教材は適宜担当教員により提供。)

学生に対する評価

Classwork and homework activities (70%), assignments (30%). (授業への積極的な参加及び宿題提出に 70%, レポート提出に 30%で評価する)

授業科目名： ドイツ語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 阿部 雄一
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
ドイツ語でごく基礎的な文型の文を言い、書けるようにする。			
授業の概要			
<p>第二外国語の勉強の目的は、第一に当該言語の習得である。だがそれだけでなく、自分の頭の中にある未知の思考回路を開拓し、これまで培ってきた日本語（と第一外国語）を豊かにすることを通して、柔軟な思考力を得ることにもある。本講座では、ドイツ語という初修の外国語を利用して、内なる未知の世界に乗り出すことを目指す。そのために重要なのは、なぜそうなるのかを考えながら言葉の法則をじっくり理解することである。その上で、教室では受講者どうしでペアになって、下記のような対話練習をしてもらう。</p>			
授業計画			
第 1 回：ドイツ語圏とドイツ語について。			
第 2 回：ドイツ語のアルファベットと発音の基本。			
第 3 回：発音の復習と発展的理解。挨拶言葉と数字。			
第 4 回：「第 3 人称単数現在に-s」だけではないドイツ語の動詞変化。			
第 5 回：動詞の現在人称変化の習熟と応用。「どちらの出身ですか？—ドイツから来ました」			
第 6 回：特殊な動詞変化を使う。「何をしているの？—私は学生だよ」			
第 7 回：動詞変化のまとめ・暗唱と練習。			
第 8 回：格が違うとお話にならない名詞の格変化。「その男は誰を（誰がその男を）愛しているの？」			
第 9 回：定冠詞と不定冠詞を使う練習。「これはリンゴです」「市役所はどこですか？」			
第 10 回：人称代名詞。格変化の習熟と応用。「私はボールペンを持っている。それをいつも使っている」			
第 11 回：名詞の格と基本文型（1）自動詞と他動詞とsein動詞（=be動詞）の区別。「先生は誰を褒めますか？—彼（彼女）はその生徒を褒めます」「その男の子はどんな子ですか？—彼は若くて美しい」			
第 12 回：名詞の格と基本文型（2）日本語や英語と対比。「何を君はその友達に贈るの？—CDを一枚贈る」			
第 13 回：名詞の格と基本文型（3）文型の習熟。「その絵をどう思いますか？—つまらないと思います」			
第 14 回：名詞の格と基本文型（4）文型の応用。「ペーターは今何をしているの？—父に手紙を書いている」			
第 15 回：総復習。			
定期試験			

テキスト

阿部雄一・山下善明「初等ドイツ語文法―ことばの仕組みを考える―」（同学社）

参考書・参考資料等

手軽に持ち運べる独和辞典として、「ドイツ語ポケット辞典（研究社 ¥3,132）」か「ポケットプログレッシブ独和・和独辞典（小学館 ¥3,240）」を薦める。あるいは電子辞書を持っていない人は独和辞典の入っている電子辞書を購入するのもよい。

学生に対する評価

学期末テストを重視する（60%）が、テストは普段の積み重ねであるから、宿題とミニテストと暗唱による平常点（40%）もそれに劣らず評価に入れる。

授業科目名： ドイツ語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 阿部 雄一
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 「ドイツ語Ⅰ」で修得した知識をもとに、もう少し複雑なドイツ語文を作れるようにする。			
授業の概要 冠詞類、形容詞、前置詞の用法を学び、それらを用いて対話練習する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発展的復習1：動詞変化。</p> <p>第2回：発展的復習2：名詞と冠詞の変化。</p> <p>第3回：前期の総復習。および、名詞の複数形。「私はリンゴが好きです」</p> <p>第4回：定冠詞類と不定冠詞類について。「この車は誰のものですか？—私の父のものです」</p> <p>第5回：定冠詞類と不定冠詞類の暗記と練習。「どの子も自分の母親を愛している」</p> <p>第6回：形容詞の用法と格変化。および、序数詞。「きょうは何日ですか？」「生年月日はいつですか？」</p> <p>第7回：形容詞を格変化させて使う練習。「緑茶はお好きですか？」「私は私の可愛いペットたちにカラフルな首輪を買ってやる」</p> <p>第8回：不定代名詞。「オーストリアでも（人は）ドイツ語を話す」「何も偶然ではない、すべては既定のことだ」</p> <p>第9回：前置詞の基礎。</p> <p>第10回：前置詞を使う作文練習。「あした私は母とスイスへ行く」「私は本を棚に置く」「本は棚に置いてある」</p> <p>第11回：前置詞の応用練習。前置詞の結合形。「何時に大学に行くの？—大学へは12時に行く」</p> <p>第12回：前置詞の結合形の練習。「君たちは何のことを話しているの？—ヨーロッパの現代音楽についてだ」</p> <p>第13回：前置詞と動詞・形容詞との熟語。「君の仕事、誇りにしている？—うん、それを誇りにしている」</p> <p>第14回：前置詞の練習。「君のCD、どこに置くの？—その机の上に。—ただけどその上は物がいっぱいだよ」</p> <p>第15回：総復習</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>阿部雄一・山下善明「初等ドイツ語文法—ことばの仕組みを考える—」（同学社）</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>手軽に持ち運べる独和辞典として「ドイツ語ポケット辞典（研究社 ¥3,132）」か、「ポケッ</p>			

トプログレッシブ独和・和独辞典（小学館 ¥3,240）」を薦める。あるいは電子辞書を持っていない人は独和辞典の入っている電子辞書を購入するのもよい。

学生に対する評価

学期末テストを重視する（60%）が、テストは普段の積み重ねであるから、宿題とミニテストと暗唱による平常点（40%）もそれに劣らず評価に入れる。

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 原田 操
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 フランス語の仕組みの概要を理解し、基礎的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。			
授業の概要 フランス語の未習者を対象とし、入門段階から「聞く・話す・読む・書く」という四つの能力をバランスよく伸ばしていくことを目的とする。 実際の日常生活のさまざまな状況と関連づけて言語を教えることにより、学習者のコミュニケーション能力を養成する。そのため口頭表現に関する練習を積極的に取り入れる。また並行して基本的な文法の仕組みとその考え方を教え、これによって学習者各自が無理なく習得を続けるための学習の基礎を作ることを主眼とする。			
授業計画 第 1 回：授業に必要な説明、連絡(教科書を参照する)を行い、基本的なあいさつを学ぶ。 第 2 回：あいさつの仕方。アルファベットと発音の基礎。 第 3 回：第 1 課：自己紹介をする：基本の会話と発音。授業で学んだことを確実に覚えて行く。 第 4 回：第 1 課：自己紹介をする：tu と vous の違い 第 5 回：第 1 課：自己紹介をする：フランス語の動詞について 第 6 回：第 2 課：何語を話すか言う：基本の会話と発音。習ったことが自然に定着するように、前回の内容を確認しながら進む。 第 7 回：第 2 課：何語を話すか言う：第一群規則動詞 第 8 回：第 2 課：何語を話すか言う：国名につく前置詞と冠詞 第 9 回：第 2 課：何語を話すか言う：世界におけるフランス語圏について。習った内容を実際に使って、自分がフランス語で何が言えるかを確認する。 第 10 回：まとめ：振り返りによって、これまでの学習内容の要点を知る 第 11 回：第 3 課：好き嫌いを言う：基本の会話と発音。これまでと同様に、適宜復習を加えて進む。 第 12 回：第 3 課：好き嫌いを言う：疑問文、否定文 第 13 回：第 3 課：好き嫌いを言う：定冠詞、不定冠詞 第 14 回：第 3 課：好き嫌いを言う：部分冠詞 第 15 回：第 4 課：人物の特徴を言う：基本の会話と発音 定期試験は実施しない。小試験を複数回実施する。			
テキスト 中井珠子他著 『発見！フランス語教室』(第三書房)			
参考書・参考資料等 必要に応じ随時授業中に提示する。			
学生に対する評価 授業への取り組み(授業内活動への参加、ノートテイキングを含む)55%、小試験の合計45%			

授業科目名： フランス語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 原田 操
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 引き続き、フランス語の大まかな仕組みを理解し、基礎的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。			
授業の概要 「フランス語Ⅰ」をすでに学習したものを対象とし、引き続き「聞く・話す・読む・書く」という四つの能力をバランスよく伸ばしていくことを目的とする。 実際の日常生活の状況と関連づけて言語を教えることによって学習者のコミュニケーション能力の養成を図りながら、基本的な文法の仕組みと考え方を並行して教えていくことを引き続き主眼とするが、よりよい言語の理解と応用力の育成に向けて、既習の事項を整理できるような活動や応用練習も併せて取り入れる。			
授業計画 第1回：復習から始める。前期に学んだことがどのくらい身についているか確認する。 第2回：第4課：人物の特徴を言う：外見や性格などの言い方 第3回：第4課：人物の特徴を言う：フランス語の形容詞について。ゲームを作って、力を試してみる。 第4回：第4課：人物の特徴を言う：形容詞の性数一致 第5回：まとめ：「フランス語Ⅰ」と同様に、無理のないペースで足元を確かめながら進んでいく。 第6回：第5課：からだの状態を言う：基本の会話と発音 第7回：第5課：からだの状態を言う：動詞 avoir の現在形 第8回：第5課：からだの状態を言う：定冠詞の縮約 第9回：第5課：からだの状態を言う：否定疑問文への答え方 第10回：まとめ：この頃になると、随分フランス語になじんだ印象があるはずだ。 第11回：第6課：時刻、天候を表現する：基本の会話と発音 第12回：第6課：時刻、天候を表現する：時刻の言い方 第13回：第6課：時刻、天候を表現する：faire の現在形 第14回：第6課：時刻、天候を表現する：非人称構文 第15回：全体に対するまとめ、補足 定期試験は実施しない。小試験を複数回実施する。			
テキスト 中井珠子他著、『発見！フランス語教室』（第三書房）			
参考書・参考資料等 必要に応じ随時授業中に提示する。			
学生に対する評価 授業への取り組み(授業内活動への参加、ノートテイキングを含む)55%、小試験の合計 45%			

授業科目名： 中国語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 三枝 秀子 (青木 秀子)
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中国語の発音・文法を中心とした中国語の基礎力を身につけます。 3 点の目標を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語の発音記号（ピンイン）を読むことができる。 ・ 中国語の基本的な文法がわかる。 ・ 簡単な中国語を日本語に、日本語を中国語に訳すことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。中国語の発音や発音記号を学び発音に慣れること、中国で使用している漢字と日本語の漢字との違い、中国語の文の組み立てと日本語文との違いが分かるようになることを目指します。単語や本文をグループにて反復練習することにより中国語の発音とリズムを身につけます。中国語文を日本語に訳すこと、中国語を用いて作文することを通して中国語の文法を習得していきます。中国語の学習を通して、中国の文化・習慣・歴史などへの理解を深めていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：ガイダンス 発音練習① 声調・単母音を学び、発音の練習をします。</p> <p>第 2 回：発音練習② 子音・有気音と無気音の発声方法を学び、発音の練習をします。</p> <p>第 3 回：発音練習③ 複合母音と -n, -ng をともなう母音を学び、発音の練習をします。</p> <p>第 4 回：発音練習④ 軽声・声調の変化・儿化音を学び、発音の練習をします。</p> <p>確認小テスト ①発音の学修内容が目標に到達しているか確認します。</p> <p>第 5 回：第 1 課「我姓吉田」（私は吉田です）中国語で自分の名前を言ってみよう。</p> <p>グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第 6 回：第 1 課「我姓吉田」（私は吉田です）中国語で自分の名前を言ってみよう。</p> <p>グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p> <p>第 7 回：第 2 課「这是图书馆」（これは図書館です）指示代名詞と動詞の文を学ぼう。</p> <p>グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第 8 回：第 2 課「这是图书馆」（これは図書館です）指示代名詞と動詞の文を学ぼう。</p> <p>グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p> <p>第 9 回：第 3 課「我喝咖啡」（私はコーヒーを飲みます）動詞の文と疑問詞、疑問文を学ぼう。</p> <p>グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第 10 回：第 3 課「我喝咖啡」（私はコーヒーを飲みます）動詞の文と疑問詞、疑問文を学ぼう。</p> <p>グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p> <p>第 11 回：第 4 課「好朋友」（親友）形容詞の文と反復疑問文を学ぼう。</p> <p>グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p>			

第12回：第4課「好朋友」（親友）形容詞の文と反復疑問文を学ぼう。

グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。

第13回：第5課「作業」（宿題）数の数え方、時刻の言い方と比較表現を学ぼう。

グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。

第14回：第5課「作業」（宿題）数の数え方、時刻の言い方と比較表現を学ぼう。

グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。

第15回：前期総括

確認小テスト②第1課から第5課の学修内容が目標に到達しているか確認します。

テキスト

『はじめて習う中国語』（渡辺晴夫監修・徐祖瓊著、白水社）を使用します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

学生に対する評価

授業への取り組み（新出単語の予習・トレーニング問題の予習）30%、課題（「本文」の日本語翻訳）25%、確認小テスト（①発音確認テスト、②第1課から第5課）45%により評価します。

授業科目名： 中国語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 三枝 秀子 (青木 秀子)
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の発音・文法を中心とした中国語の基礎力を身につけます。</p> <p>3点の目標を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語を正しく発音し、本文を朗読することができる。 ・中国語の基本的な文法がわかる。 ・簡単な中国語を日本語に、日本語を中国語に訳すことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>中国語を正しく発音できるようになること、中国で使用している漢字を正しく書けるようになること、中国語の文の組み立てを確実に分かるようになることを目指します。本文の朗読をグループにて反復練習することにより中国語の発音とリズムを身につけます。中国語文を日本語に訳すこと、中国語を用いて作文することを通して中国語の文法を習得していきます。中国語の学習を通して、中国の文化・習慣・歴史などへの理解を深めていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第6課「买新鞋了」(新しい靴を買いました)物の数え方と完了表現を学ぼう。 グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第2回：第6課「买新鞋了」(新しい靴を買いました)物の数え方と完了表現を学ぼう。 グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p> <p>第3回：第7課「看电影」(映画を見る):助詞「吧」と助動詞「要」「想」を学ぼう。 グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第4回：第7課「看电影」(映画を見る):助詞「吧」と助動詞「要」「想」を学ぼう。 グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p> <p>第5回：第8課「烤白薯」(焼き芋):前置詞「在」と「从～到」、禁止表現を学ぼう。 グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第6回：第8課「烤白薯」(焼き芋):前置詞「在」と「从～到」、禁止表現を学ぼう。 グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p> <p>第7回：確認小テスト①第6課から第8課の学修内容が目標に到達しているか確認します。 第9課「日本の古建筑」(日本の古い建築)経験を表す「过」と強調表現を学ぼう。 グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。</p> <p>第8回：第9課「日本の古建筑」(日本の古い建築)経験を表す「过」と強調表現を学ぼう。 グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。</p>			

第9回：第10課「想家了？」（ホームシックになったのですか？）進行を表す「在」と助動詞「能」を学ぼう。グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。

第10回：第10課「想家了？」（ホームシックになったのですか？）進行を表す「在」と助動詞「能」を学ぼう。グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。

第11回：第11課「睡得好」（よく眠れます）程度を表す表現と助動詞「会」を学ぼう。グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。

第12回：第11課「睡得好」（よく眠れます）程度を表す表現と助動詞「会」を学ぼう。グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。

第13回：第12課「社会福利活动」（ボランティア活動）助動詞「可以」と前置詞「跟」を学ぼう。グループにて新出単語の発音の確認。講義にて文法事項を学びます。

第14回：第12課「社会福利活动」（ボランティア活動）助動詞「可以」と前置詞「跟」を学ぼう。グループにて本文の発音練習と日本語翻訳、トレーニング問題の確認をします。

第15回：後期総括

確認小テスト②第9課から第12課の学修内容が目標に到達しているか確認します。

テキスト

『はじめて習う中国語』（渡辺晴夫監修・徐祖瓊著、白水社）を使用します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

学生に対する評価

授業への取り組み（新出単語の予習・トレーニング問題の予習）35%、課題（「本文」の日本語翻訳）35%、確認小テスト（①第6課から第8課、②第9課から第12課）30%により評価します。

授業科目名： 情報機器の操作 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 符 儒徳、久米 正浩、小島 久恵 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 1. ワープロとインターネットといった情報機器の基本的な操作方法を覚え、パソコンを使えるようになる。 2. 文書作成とネット検索ができ、レポートなどをメールで送ることができるようになる。			
授業の概要 パソコンなどでの日本語入力、メールの使い方、インターネットでの情報検索、添付ファイルの送信、ワープロなどアプリケーションソフトウェアの操作に関する演習を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス、情報機器の操作とは何か 第2回：ログイン、基本操作 第3回：日本語入力システムとその使い方、タッチタイピング 第4回：ブラウザの使い方、インターネット情報検索、キーワードと検索 第5回：電子メールの基礎、電子メールの設定方法 第6回：新規メールの作成、電子メールの使い方 第7回：正しい電子メールの書き方と送受信、ルールとマナー 第8回：Wordの使い方 (1) 文書作成と書式設定、文字フォントの特徴 第9回：Wordの使い方 (2) 定型文書の作成、文書内に表の挿入、特殊文字の組込み 第10回：Wordの使い方 (3) 注目度の高い文書の作成、文字の視覚的効果、画像・図形の挿入 第11回：添付書類のメール送信 電子メールの有効活用 第12回：コンピュータシステム ハードウェアとソフトウェア、パソコンの基本構成 第13回：エクスプローラー 基本操作方法、フォルダーの新規作成、ファイルの管理 第14回：情報セキュリティ、情報モラル、情報機器を安全に使うには 第15回：レポートの作成方法、印刷 定期試験			
テキスト 模本竜二(2013)『教職必修 情報機器の操作：教員のためのICT活用法』実教出版。			
参考書・参考資料等 高橋参吉 他 (2021) 『教職・情報機器の操作 - ICTを活用した教材開発・授業設計』コロナ社。 noa出版(2019) 『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応』noa出版。			

学生に対する評価

授業への取り組み(30%)、レポート(30%)、定期試験(40%)を総合して評価する。

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土屋 陽介、森 透
			担当形態：クラス分け・オム ニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、小学校・中学校・高等学校の教員免許の取得を希望する学生を主な対象として、受講生が初等・中等教育の教員として必要な教育史的・教育思想的な観点を身につけることを主要な目的とする。</p> <p>(1) 教育の理念・歴史・思想に関する基本的な知識を理解できるようになる。</p> <p>(2) 教育の本質に関わる問題について、歴史的・思想的な観点を踏まえて論理的に思考した上で、自らの考えを文章や発言を通して明快に表現できるようになる。</p> <p>(3) 現実の教育現場で生じる様々な問題を、原理的な次元に立ち返って考察する姿勢や態度が身につく。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「教育とはそもそも何か？」という根本的な問題について、理念的・歴史的・思想的な観点から検討することを通して、教育について原理的な次元で考察する。まず、「教育」「子ども」「学校」などについて原理的に考察することを通して、教育の理念を問い直し、教育に関する基本的諸概念を理解する。次に、教育をめぐる現実的な諸課題を、理念的・歴史的な視点から検討する。その上で、古代から現代に至る教育思想の歴史を概観し、それぞれの時代を代表する教育思想家の考え方を理解して、それらを現代の視点も交えながら批判的に検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入…教育の理念・思想・歴史を考察する意義について (担当：森 透)</p> <p>第2回：教育学の諸概念、教育の本質と目標 (担当：森 透)</p> <p>第3回：子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 (担当：森 透)</p> <p>第4回：近代教育制度の成立と展開を考える (担当：森 透)</p> <p>第5回：教育の歴史 (1) …歴史的な視点から学習観と教育方法を考える (担当：森 透)</p> <p>第6回：教育の歴史 (2) …歴史的な視点から現代社会における教育課題を考える (担当：森 透)</p> <p>第7回：教育の歴史 (3) …歴史的な視点から現代社会における教師の役割を考える</p>			

(担当：森 透)
第8回：教育思想 (1) …古代から中世の教育思想 ソフィストとソクラテス、アリストテレス、トマス・アキナス、ルターなど
(担当：土屋 陽介)
第9回：教育思想 (2) …17世紀の教育思想 コメニウス、ロックなど
(担当：土屋 陽介)
第10回：教育思想 (3) …18世紀の教育思想 ルソーなど
(担当：土屋 陽介)
第11回：教育思想 (4) …18世紀末から19世紀の教育思想 ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトなど
(担当：土屋 陽介)
第12回：教育思想 (5) …19世紀末から20世紀前半の教育思想 ヨーロッパの新教育運動とレディ、エレン・ケイ、ニールなど
(担当：土屋 陽介)
第13回：教育思想 (6) …19世紀末から20世紀前半の教育思想 アメリカの新教育運動とデューイ、キルパトリックなど
(担当：土屋 陽介)
第14回：教育思想 (7) …20世紀後半から現代の教育思想 フーコー、イリイチ、フレイレ、ランシエールなど
(担当：土屋 陽介)
第15回：まとめ…初等・中等教育の教員として必要な教育史的・教育思想的な観点について
(担当：土屋 陽介)
定期試験は実施しない
テキスト
指定教科書は使用しない
参考書・参考資料等
伊藤潔志（編著）『哲学する教育原理』保育出版社、2017年。
今井康雄（編）『教育思想史』有斐閣、2009年。
広岡義之、津田徹『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房、2019年。
文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』（平成29年告示）『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）
学生に対する評価
平常点(グループディスカッションへの参加・授業後に提出するリアクションペーパー) (20%)、授業中に実施する確認テスト (40%)、学期末レポート (40%) に基づき、総合的に評価する。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 透 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義と教員の役割, 教員の職務内容を説明することができる。職業として教員を選ぶ意味について理解を深め, 教員の資質について説明することができる。			
授業の概要 教職課程の入門講座として, 「教職とは何か」についての基本的な概念の習得を目的とする。質疑応答やグループディスカッションを通じて, 教職を志す学生が教育現場の実情を知り, 教職の意義や教員の役割, 教員の職務内容, 教育・教職をめぐる諸問題を考察し, 自己の教職観とそのための準備（進路選択）について考える。			
授業計画 第1回：教師の日常世界へ（専門家としての教師） 第2回：教職という仕事の性格（他の専門職との比較） 第3回：時代の中の教師（教職観の変遷と教員に求められる力量） 第4回：子どもを育む（子どもの心に寄り添う） 第5回：教職の専門性（児童・生徒への指導と職務の全体像） 第6回：生涯を教師として生きる（教員研修の意義の理解と生涯学び続けること） 第7回：教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障 第8回：同僚とともに学校を創る（チーム学校論・同僚性） 第9回：授業をつくる・授業から学ぶ 第10回：カリキュラムをデザインする 第11回：教師の仕事とジェンダー 第12回：教育改革と教師の未来 第13回：持続可能な社会において期待される教師とは 第14回：教職の意義, 教員の役割・職務についての総括（まとめ①） 第15回：教職の意義, 教員の役割・職務についての総括（まとめ②） 定期試験は実施しない			
テキスト 秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門（改訂版）』（有斐閣、平成15年8月）			
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年3月告示）『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成30年3月告示） 文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月作成）			

学生に対する評価

平常点（意見発表・プレゼンテーション）（50%）、学期末レポート（50%）に基づき、総合的に成績評価を行う。

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八尾坂 修
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①教育行政の理念, 組織, 仕組みを説明できる, ②教育行政を巡って指摘されている問題と課題を説明できる, ③教育行政について考察を深めるために必要な情報の取得方法を知り, 活用することができる。			
授業の概要			
教育行政の理念, 目的と内容, 教育行政機関の組織と機能, 学校の組織マネジメント, 教員の職能開発と人材育成政策等について概説する。事前の課題学習やディスカッションを行う中で, 受講者がこれまでの学校教育の中で経験した教育行政の一側面を振り返ると共に, 教育行政施策に関する報道等を手がかりとしつつ, 日本の教育行政の現実と今後の課題を考える。			
授業計画			
第1回：ガイダンス－学校を巡る様々な変化を捉える			
第2回：子供の生活をめぐる諸問題			
第3回：教育振興基本計画に基づく教育施行の展開			
第4回：諸外国の教育動向－主に初等中等教育を例に－			
第5回：公教育の理念と組織原理			
第6回：公教育制度を構成する関連教育法規			
第7回：中央・地方教育行政の理念と構造, 諸課題			
第8回：自律的学校経営と学校評価・学校改善			
第9回：学年・学級経営の仕組と学級力の育成			
第10回：教職員集団と地域関係者とのポジティブな学校文化づくり			
第11回：地域との連携協働により学校教育活動の意義			
第12回：開かれた学校づくりと一体的なコミュニティスクール（例）			
第13回：学校安全の概念, 安全教育と安全管理			
第14回：学校の働き方改革と取組事例			
第15回：教育行政・政策・経営についての総括			
定期試験			
テキスト			
八尾坂修著『学校開発力と人（ひと）人の存在・連携を重視した公教育の構築に向けて』（ジヤース教育新社、平成28年1月）			
八尾坂修編著『改正教育法規と学校経営全課題』（教育開発研究所、平成21年9月）			

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年3月告示）『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成30年3月告示）

文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月）

学生に対する評価

平常点（意見・発言・授業後に提出するリアクションペーパー）（10%），授業中に指示するレポート及び小テスト（40%），定期試験（50%）に基づき，総合的に成績評価を行う。

授業科目名： 心身の発達と学習過程	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴原 宜幸、寺本 妙子、 菅井 篤
			担当形態：クラス分け・複数 ・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>対話型の講義を通じて、児童・生徒の心身の発達や学習過程について網羅的に理解する。発達に関する基本的概念や領域別（運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達）の発達過程についての理解を踏まえ、児童・生徒の発達の状況についての理解を深める。発達についての理解を土台に、学習のメカニズムや様々な学習形態、及び、主体的学習を支える関連要因（動機づけ、集団づくり、学習評価）について理解し、受講者自身の体験の振り返りやグループでの意見交換を通じて、具体的で多面的な理解を深める。小学校、中学校、高等学校における実際の授業実践の動画を視聴し、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動について意見交換し、協働的な活動（グループ・ディスカッション、プレゼンテーション）を通じて、具体的で多面的な理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第1回 授業ガイダンス：本授業の目的、内容、および展開方法について理解し、教職課程における児童・生徒の心身の発達と学習過程についての学びの位置付けについて理解を深める。 (担当：柴原 宜幸、寺本 妙子)</p>			
<p>第2回 心身の発達過程の特徴①：児童・生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論（J. Piagetの認知発達説等）について理解を深め、発達の概念や教育における発達理解の意義について理解する。 (担当：柴原 宜幸)</p>			
<p>第3回 心身の発達過程の特徴②：乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について概観し、その具体的な内容について理解を深める。映像教材を視聴してグループ・ディスカッションをおこない、各時期の各領域の発達の具体について理解を深める。 (担当：柴原 宜幸、寺本 妙子)</p>			
<p>第4回 心身の発達過程の特徴③：乳幼児期から青年期の各時期における定型発達（運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達）の理解を基盤とし、非定型発達について理解を深める。映像教材を視聴してグループ・ディスカッションをおこない、発達における多様性について理解を深める。 (担当：寺本 妙子)</p>			

- 第5回 中間のまとめ： 本授業におけるこれまでの学び（発達に関する学び）を振り返り、グループで意見交換し、全体で共有する。各自でレポートにまとめ、後半の授業に向けた準備性について意識化する。（担当： 柴原 宜幸）
- 第6回 学習過程と学習指導①： 社会的学習理論、状況的学習論、協調学習を中心に、関連する学習形態や概念について理解し、その過程を説明する代表的理論について理解を深める。受講者自身の学びを振り返り、グループでの意見交換を通じて、具体的な理解を深める。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第7回 学習過程と学習指導②： 行動論的学習理論、認知論的学習理論、自己調整学習を中心に、関連する学習形態や概念について理解し、その過程を説明する代表的理論について理解を深める。受講者自身の学びを振り返り、グループでの意見交換を通じて、具体的な理解を深める。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第8回 学習過程と学習指導③： 主体的学習を支える動機づけや集団づくりについて、発達の特徴と関連付けて理解を深める。受講者自身の体験を振り返り、グループでの意見交換を通じて、具体的な理解を深める。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第9回 学習過程と学習指導④： 主体的学習を支える学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解を深める。受講者自身の体験を振り返り、グループでの意見交換を通じて、具体的な理解を深める。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第10回 学習過程と学習指導⑤： 児童・生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方について理解を深める。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第11回 学習活動の観察と分析①（小学校低・中学年）： 小学校低・中学年の授業実践の動画を視聴し、児童の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の具体について分析し、グループで話し合い、全体共有する。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第12回 学習活動の観察と分析②（小学校高学年）： 小学校高学年の授業実践の動画を視聴し、児童の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の具体について分析し、グループで話し合い、全体共有する。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第13回 学習活動の観察と分析③（中学校・高等学校）： 中学校・高等学校の授業実践の動画を視聴し、生徒の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の具体について分析し、グループで話し合い、全体共有する。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第14回 学習活動の観察と分析④： これまで視聴した授業実践の分析についてグループでまとめ、全体共有する（発表資料を作成してプレゼンテーションをする）。（担当：柴原 宜幸、寺本 妙子、菅井 篤）
- 第15回 総括： 本授業における学びを振り返り、この授業で修得したことを意識化し、各自の学びの意味づけをおこなう（各自でレポートにまとめて提出する）。（担当：柴原 宜幸）

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

滝沢武久（2011）. ピアジェ理論からみた思考の発達と心の教育. 日本幼年教育会.

J. S. ブルーナー（鈴木祥蔵・佐藤三郎 訳）（2014）. 教育の過程. 勁草書房.

ヴィゴツキー（土井捷三・神谷栄司 訳）（2003）. 「発達の最近接領域」の理論：教授・学習過程における子どもの発達. 三学出版.

白水 始（2020）. 対話力—仲間との対話から学ぶ授業をデザインする！ 東洋館出版社.

中谷素之他（編著）（2021）. 子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践 教師・指導者のための自己調整学習. 福村出版.

奈須正裕（2021）. 個別最適な学びと協働的な学び. 東洋館出版社.

学生に対する評価

授業の取組（グループワーク、発表）（20%）、毎時の課題（ワークシート）（20%）、レポート2回（60%）に基づき総合的に評価する。

授業科目名： 特別な教育的ニーズの 理解と支援	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺本 妙子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする児童生徒が、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、児童生徒の学習上・生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>対話型の講義を通じて、特別支援教育に関する制度や特別な支援を必要とする児童生徒の障害の特性、心身の発達、心理的的特性及び学習の過程を理解し、その教育課程や支援の方法について理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する対応・支援の方法についても理解を深める。グループワークや演習を通じて多面的に理解し、具体的な事例について指導・支援の方法を考案（例示）し、その相互評価をおこなう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：学習指導要領総則を概観し、特別な教育的ニーズについて多面的に理解する。</p> <p>第2回 特別支援教育に関する制度：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて理解する。</p> <p>第3回 特別な支援を必要とする児童生徒の理解①：発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒の心身の発達、心理的的特性及び学習の過程を理解する。</p> <p>第4回 特別な支援を必要とする児童生徒の理解②：軽度知的障害等の特別な支援を必要とする児童生徒の心身の発達、心理的的特性及び学習の過程を理解する。</p> <p>第5回 特別な支援を必要とする児童生徒の理解③：視覚障害・聴覚障害等のある児童生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付け、どのような対応が必要かつ適切か理解を深める。</p> <p>第6回 特別な支援を必要とする児童生徒の理解④：知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある児童生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付け、どのような対応が必要かつ適切か理解を深める。</p> <p>第7回 特別な支援を必要とする児童生徒の教育課程及び支援の方法①：発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒に対する教育課程及び支援の方法について理解を深め、具体的な支援方法を考案（例示）し、受講者間で相互評価する。</p> <p>第8回 特別な支援を必要とする児童生徒の教育課程及び支援の方法②：軽度知的障害等の特</p>			

別な支援を必要とする児童生徒に対する教育課程及び支援の方法について理解を深め、具体的な支援方法を考案（例示）し、受講者間で相互評価する。

第9回 特別な支援を必要とする児童生徒の教育課程及び支援の方法③：「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解し、具体的な指導方法を考案（例示）し、受講者間で相互評価する。

第10回 特別な支援を必要とする児童生徒の教育課程及び支援の方法④：特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。

第11回 特別な支援を必要とする児童生徒の教育課程及び支援の方法⑤：具体的な事例について、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を考案し、受講者間で相互評価する。

第12回 特別な支援を必要とする児童生徒の教育課程及び支援の方法⑥：特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築する必要性を理解し、現状の課題について理解を深める。

第13回 障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の把握や支援①：母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。

第14回 障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の把握や支援②：障害を伴わない特別な教育的ニーズに関する事例について、対応や支援の方法を考案（例示）し、受講者間で相互評価する。

第15回 これまでの学びについて振り返り、この授業で修得したことを意識化し、自らの学びの意味付けをおこなう。

定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）

特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 総則編（小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）（平成31年2月 文部科学省）

学生に対する評価

授業の取組（グループワーク、発表）（40%）、ワークシート（20%）、レポート（40%）

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土井 雅弘
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校及び中学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、小学校及び中学校学習指導要領等を中心に、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する道徳教育（学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の授業）について、具体的な実践例や教材等を用いて、その理論と指導法を講義・演習等を通して学ぶものである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：道徳の本質（道徳とは何か）について、学生がどのように捉えているかを把握し、その上で、道徳教育の歴史を振り返り、日本の道徳教育の在り方について考察し、道徳教育の全体像をつかむ。</p> <p>第2回：社会の変化等に伴う子供たちの変化、その状況を道徳教育の視点から捉え、現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）を理解し、道徳教育の果たす役割を考察する。</p> <p>第3回：学習指導要領を基に、道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解するとともに、道徳性、道徳的実践、道徳的価値の自覚等、道徳教育に係る用語を通して道徳教育の一層の理解を図る。</p> <p>第4回：子供の心の成長と道徳性の発達について、道徳的価値との関わりを理解するとともにピアジェやコールバーグ等の道徳性の発達理論を調べ発表し合い、道徳性について深く理解する。</p> <p>第5回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解し、その指導原理を明らかにしながら、具体的な実践例を取り上げ、そのよさと課題を考察する。</p> <p>第6回：学習指導要領解説等を基に、道徳の内容を調べて互いに発表し合う。特に、「自分自身に関すること」、「人との関わりに関すること」の内容を取り上げる。</p> <p>第7回：学習指導要領解説等を基に、道徳の内容を調べて互いに発表し合う。特に、「集団や</p>			

社会との関わりに関すること」、「生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の内容を取り上げる。

第8回：道徳科の目標を踏まえ、道徳の授業の要件等を明らかにして、ディスカッションしながら指導過程を捉え、道徳の授業のイメージをもつ。

第9回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法とその特徴を理解し、具体的な教材を取り上げながら、道徳の授業のイメージを一層膨らませ、道徳の授業がどのようなものか深く理解する。

第10回：自分自身に関することの内容から具体的な教材文を取り上げその特徴を踏まえ、授業のねらいに基づいて発問を組み立てていく演習を通して授業づくりを体験的に学ぶ。

第11回：人との関わりに関することの内容から具体的な教材文を取り上げその特徴を踏まえ、授業のねらいに基づいて発問を組み立てていく演習を通して授業づくりを体験的に学ぶ。

第12回：道徳の授業を支える話し合いや書く活動、役割演技、板書の工夫等の指導方法や指導技術を理解し、そのよさと課題を考察する。

第13回：具体的な教材文を取り上げ、教材吟味、発問づくり、指導方法の選択等を演習しながら、授業のねらいや指導過程を明確にした道徳科の学習指導案の作成、書き方を理解する。

第14回：道徳科の模擬授業を通して、道徳の授業の理解、イメージを一層深めるとともに、その振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。

第15回：道徳科における指導と評価の一体化の考え方を理解するとともに、道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解する。

定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省）

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて随時参考資料等を提供する。

学生に対する評価

平常点25%、レポート25%、定期試験50%に基づき、総合的に成績評価を行う。

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法（教育課程論を 含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田 俊幸、永山 香織、三 石 初雄 担当形態：クラス分け・複 数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校、中学校及び高等学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ・総合的な学習の時間の指導法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育過程の意義と編成方法、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。総合的な学習の時間の果たす役割を認識し、実社会の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および指導方法、評価に関する知識・技能を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育課程が有する役割・機能・意義を認識した上で、教科や総合的な学習の時間が位置付けを学び、その特色について考える。次に、国内外で実践されている総合学習の事例を分析、検討し、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解する。興味のある分野を選択し、カリキュラム開発にチャレンジして、教育課程編成の方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【教育課程とは】 創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するために、学習指導要領の変遷に見る教育課程編成とその目的に関して学ぶ。 (担当：富田 俊幸、三石 初雄)</p> <p>第2回：【学習指導要領の性格と位置付けと教育課程の目的】 学習指導要領の法的性格と学校教育における位置づけ、教育課程の目的について理解する。 (担当：富田 俊幸、三石 初雄)</p> <p>第3回：【学習指導要領の変遷と主な改訂内容並びにその社会的背景】 昭和22年～平成29年までの変遷に関して、社会的背景をふまえながら、教科課外活動の趣旨並びに目的を理解し、当時の教育事情を認識する。 (担当：富田 俊幸、三石 初雄)</p> <p>第4回：【教育課程の社会的役割と機能、教育課程編成の基本原則】 現在の教育課程が社会において果たしている役割と機能、教育過程編成の基本原則を理解できる。 (担当：富田 俊幸、三石 初雄)</p> <p>第5回：【教科・領域横断教育内容の選択・配列の方法例示】 教科・領域においては、教育内容を選択して配列して、教科横断的な教育計画の作成を理解できる。 (担当：富田 俊幸、三石 初雄)</p> <p>第6回：【教育課程編成の編成及び指導計画と児童生徒・学校・地域の実態の理解】 児童生徒・学校・地域の実態を理解した上で、教育課程の編成及び指導計画を作成することが重要であることを理</p>			

解する。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第7回：【カリキュラム・マネジメントの意義と教育課程】 教科・領域・学年をまたいで地域・子ども主体のカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を考え、地域に即したカリキュラム編成に挑戦してみる。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第8回：【カリキュラム評価と学校評価】 計画したカリキュラムが有効であったかを評価するカリキュラム評価と、経営計画や教育計画に基づいて実践される教育活動がどの程度機能しているのかを評価する学校評価を理解する。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第9回：【総合的な学習の時間の目標と留意点】 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点に関して学ぶ。

(担当：永山 香織、三石 初雄)

第10回：【総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する重要性と事例検討】 総合的な学習の時間と各教科等との関連性を図りながら、教科を越えて必要となる資質・能力の育成するために年間指導計画を作成する重要性に関して、具体的な事例を通して学ぶ。国内外で実践されている総合学習の事例を発表し合う。

(担当：永山 香織、三石 初雄)

第11回：【探究的な学習過程と評価の考え方】 具体的な事例を通して、探究的な学習過程を保障するための教師の役割について検討する。また、そのような学習過程を重視する評価方法及び留意点について学ぶ。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第12回：【教科・領域を横断したり単元・学期・学年をまたいだカリキュラム開発 ①】 各教科等との関連性を図りながら、教科・領域を横断したり、単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、地域の実態を踏まえて教育内容を選択・配列して、主体的・対話的で深い学びを実現するような総合的な学習の時間の単元計画を作成する。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第13回：【教科・領域を横断した単元及び学期・学年をまたいだカリキュラム開発 ②】 各教科等との関連性を図りながら、主体的・対話的で深い学びを実現するような題材名、ねらい、展開、実践に際しての留意点、評価方法等について検討して総合的な学習の時間の単元計画を作成する。

(担当：富田 俊幸)

第14回：【開発したカリキュラムの発表 ①】 各教科等との関連性を図りながら子どもたちの興味・関心や探究のプロセス、教師の関わり方などを想定して作成した総合的な学習の時間の年間指導計画をもとに、開発したカリキュラムを発表する。

(担当：富田 俊幸、永山 香織)

第15回：【開発したカリキュラムの発表 ②】 各教科等との関連性を図りながら地域や世界との関係性、活動の広がりや今後の発展性等を含めて作成した総合的な学習の時間の年間指導計画をもとに、開発したカリキュラムを発表する。

(担当：富田 俊幸、永山 香織)

定期試験は実施しない

テキスト

『総合的な学習の時間の指導法 大学テキスト開発プロジェクト』 日本文教出版

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領 総則』『中学校学習指導要領 総則』『高等学校学習指導要領 総則』（最新版）、『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』、『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

○課題レポート 総合点の40% ○カリキュラム開発と発表 総合点の40%

○日常の課題への取り組み 総合点の20%

授業科目名： 特別活動の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土井 雅弘
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別活動の意義と必要性を学習指導要領の内容から理解し、実際に指導する上で必要な知識と指導方法等を学び、個が生きる集団活動の大切さを十分に踏まえて効果的な実践ができる指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、特別活動が児童生徒の個性が尊重される集団活動を通して、個性をより豊かにする教育活動であることの理解をしっかりとめさせることをベースにおきつつ、講義やグループディスカッション、演習等を通じて特別活動の教育的意義や目標、指導内容、指導方法等を学ぶものである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領における特別活動の目標及主な内容を理解し、その指導法について学び、特別活動とはどのような教育活動であるかを考え、集団活動の意義や指導の在り方についての理解を深める。</p> <p>第2回：教育課程における特別活動の位置付けを理解し、各教科、道徳科、総合的な学習の時間等との関連を考えながら特別活動の指導の在り方を考察し理解する。</p> <p>第3回：学級活動及びホームルーム活動（1）について、その特質を理解し、実践例を基に問題点を明確にし、指導のポイント等を明らかにして実際に指導ができる力を身に付ける。</p> <p>第4回：学級活動及びホームルーム活動（1）について、模擬授業を行い指導の改善を図る視点を考察し、合意形成に向けた話し合い活動等の効果的な指導法等について考える。</p> <p>第5回：学級活動及びホームルーム活動（2）、（3）について、その特質を理解し、実践例を基に問題点を明確にし、指導のポイント等を明らかにして実際に指導ができる力を身に付ける。</p> <p>第6回：学級活動及びホームルーム活動（2）、（3）について、模擬授業を行い指導の改善を図る視点を考察し意思決定につながる指導等の効果的な指導法等について考える。</p> <p>第7回：児童会活動、生徒会活動について、その特質を理解し、実践例を基に問題点を明確にし、指導のポイント等を明らかにして実際に指導ができる力を身に付ける。</p> <p>第8回：クラブ活動について、その特質を理解し、実践例を基に問題点を明確にし、指導のポイント等を明らかにして実際に指導ができる力を身に付ける。</p> <p>第9回：学校行事について、その特質を理解し、実践例を基に問題点を明確にし、指導のポイント等</p>			

を明らかにして実際に指導ができる力を身に付ける。

第10回：生徒指導と連動する特別活動について考察すると共に、家庭や地域、関係機関との連携を視野に入れた教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解する。

第11回：道徳教育と特別活動の関連を学び、それぞれの特質を明らかにした上で、道徳的実践の場としての特別活動の実践例等を基に考え、家庭や地域、関係機関との連携を踏まえた特別活動の役割等とその重要性を理解する。

第12回：特別活動の評価について、実践例を基に問題点等を明確にして、評価とはどのようなものかを学び、取組の評価と改善の重要性を理解すると共に、評価し改善を図ることができる力を身に付ける。

第13回：学級活動及びホームルーム活動（1）の指導案を作成し、互いに評価し合い、よりよい指導案に改善して実際に特別活動の授業ができる力を身に付ける。

第14回：学級活動及びホームルーム活動（2）、（3）の指導案を作成し、互いに評価し合い、よりよい指導案に改善して実際に特別活動の授業ができる力を身に付ける。

第15回：これまでの授業を振り返り、修得した考えをまとめ、ディスカッションを通して、特別活動についての理解を深める。

定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省）

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて随時参考資料等を提供する。

学生に対する評価

平常点25%、レポート25%、定期試験50%に基づき、総合的に成績評価を行う。

授業科目名： 教育方法論Ⅰ（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田 俊幸、三石 初雄、 菊島 正浩、千葉 秀一 担当形態：クラス分け・複数・オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2, これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3, 学級・児童・生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4, 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 <p>○教育の目的に適した指導技術を理解と習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2, 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 <p>○情報通信技術の活用の意義と理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方を理解している。 2, 特別の支援を必要とする児童・生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用に当たっての留意点を理解している。 3, ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方を理解している。 <p>○情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例（デジタル教材の作成・利用を含む。）を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。 2, 学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性について理解している。 3, 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。 4, 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について理解している。 			

○児童・生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法

- 1, 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の時間（以下、「各教科等」という。）において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）について、その内容を理解している。
- 2, 情報活用能力（情報モラルを含む。）について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。
- 3, 児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法を身に付けている。

※小学校教諭

授業の概要

- ・子どもたちに求められる資質、授業づくり、学習指導と学習評価の一体化の重要性について議論する。
- ・児童・生徒が学ぶ学習環境、授業における教師の指導、学習形態を理解して効果的な指導技術を考える。
- ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方を理解する。
- ・児童・生徒に情報活用能力、情報モラルを育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業計画

第1回：【ガイダンス】

教育の方法及び技術、情報通信技術の活用を学ぶ意義、授業の進め方、評価方法等を確認する。

(担当：富田 俊幸、菊島 正浩、千葉 秀一)

第2回：【育みたい資質・能力】

これからの社会を担う子どもたちに育みたい資質・能力について考える。「学びに向かう力、人間性等」「思考力・判断力・表現力等」「知識・技能」について理解する。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第3回：【教師に求められる授業力】

教師に求められる授業を適切にマネジメントする能力（計画、実施、評価、改善する力）である授業力について、学習内容や学習指導、生徒指導等の観点から考える。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第4回：【授業づくり】

児童・生徒の実態の把握、明確な指導目標の設定、学習内容や指導方法の手立ての決定という授業づくりの一連のプロセスについて、学習目標や教材教具の活用等から考える。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第5回：【学習評価】

学習評価の意義や目的をふまえた上で、授業における効果的な学習評価のデザインを考える。学習の目標・指導・評価の一体化の意義を具体的に考える。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第6回：【学習環境】

授業を構成するための基礎的な要件（学級、児童、生徒、教員、教室、教材など）である学習環

境のデザインについて考える。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第7回：【指導技術（教師編）】

学びを引き出す指導技術であるノート指導、学習形態（一斉指導、グループ学習、個別学習について理解し、検討する。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第8回：【指導技術（児童・生徒編）】

学びを引き出す指導技術であるノート指導、学習形態（一斉指導、グループ学習、個別学習について理解し、検討する。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第9回：【情報通信技術の活用の意義と理論①】

社会の変化、技術の急速な発展に伴う今後の学校教育が目指す方向性（学習指導要領、授業改善特別支援教育）を理解し、それらに関わる情報通信技術活用の意義について理解するとともに、それらについて検討し理解を深める。

(担当：菊島 正浩、千葉 秀一)

第10回：【情報通信技術の活用の意義と理論②】

情報通信技術を活用するためのICT環境の整備（機材、機器、システム、アプリケーションソフトウェア等）や必要なスキル、外部人材との連携について理解するとともに、それらについて検討し理解を深める。

(担当：菊島 正浩)

第11回：【情報通信技術を効果的に活用した教育の方法①】

学習場面に応じた情報通信技術の活用事例（情報機器、学習支援アプリケーションソフトウェア、デジタル教材等の活用）、教育データ（スタディ・ログ）の活用やセキュリティ保護の方法の事例について理解するとともに、グループワークを通して事例検討を行い、理解を深める。

(担当：菊島 正浩、千葉 秀一)

第12回：【情報通信技術を効果的に活用した教育の方法②】

情報通信技術を活用したオンライン授業、オンデマンド授業の意義や方法、校務支援システムを活用した効果的な学校事務・管理の方法の事例について理解するとともに、グループワークを通して事例検討を行い、理解を深める。

(担当：菊島 正浩、千葉 秀一)

第13回：【情報通信技術を活用した学習指導の実際①】

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において育成すべき情報活用能力、情報モラル、指導方法について理解し、指導事例を調べ検討し、理解を深める。

(担当：千葉 秀一)

第14回：【情報通信技術を活用した学習指導の実際②】

情報通信技術を活用（情報機器、学習支援アプリケーションソフトウェア、デジタル教材等を活用）した教科等の授業、活動の場面についての指導案（グループで教科等、学習場面を決めて指導案）を作成する。

(担当：千葉 秀一)
<p>第15回：【情報通信技術を活用した学習指導の実際③】</p> <p>各グループで作成した指導案をもとに模擬授業を行い、指導法と授業実践力を身に付ける。</p> <p style="text-align: right;">(担当：千葉 秀一)</p>
定期試験
<p>テキスト</p> <p>『教育の方法と技術』 稲垣 忠 (北大路書房)</p> <p>『ICTを活用した指導方法』 (文部科学省)</p> <p>初等専攻 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説』 (文部科学省)</p> <p>中等専攻 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説』 (文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説』 (文部科学省)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『ICT活用の理論と実践』 稲垣 忠、佐藤 和紀 (北大路書房)</p> <p>その他、授業中に適宜資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>○「教育方法論Ⅰ」：試験</p> <p>「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」：模擬授業指導案 総合点の40%</p> <p>○ 日常の課題への取り組み 総合点の20%</p> <p>○ 課題レポート 総合点の40%</p> <p>※「教育方法論Ⅰ」と「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」それぞれの評価を統合</p>

授業科目名： 教育方法論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 富田 俊幸、三石 初雄
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技術を修得する。			
授業の概要 教育方法の基礎的理論を学んだ上で、授業デザイン及び学習指導と評価の一体化の重要性、並びに個に応じる指導のあり方について議論する。次に、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力をふまえて、主体的・対話的で深い学びを実現するための学習指導案を作成する。教材研究の手法を習得し、学習指導案を作成して発表する。教育方法及び技術に関して理論と実践の両面から学ぶことにより、実践的指導力を身に付ける。			
授業計画 第1回：【ガイダンス、基礎的理論と教育実践】教育の方法及び技術を学ぶ意義、授業の進め方、評価方法等を確認する。国内外の教育実践を通して、その実践に基づく理論や、教育方法及び技術に関する特色を考える。 <div style="text-align: right;">(担当：富田 俊幸、三石 初雄)</div> 第2回：【学習目標】 単元としての学習目標、1時間の授業における学習目標を理解して、学習指導案を作成のための学習目標の設定について考える。 <div style="text-align: right;">(担当：富田 俊幸、三石 初雄)</div> 第3回：【教材研究】 教材研究の内容及び方法を理解して、学習指導案を作成するための深い学びを導く教材研究について考える。 <div style="text-align: right;">(担当：富田 俊幸、三石 初雄)</div> 第4回：【主体的・対話的な学習過程】 主体的・対話的な深い学びを理解して、学習指導案を作成するための主体的・対話的な学習過程を考える。 <div style="text-align: right;">(担当：富田 俊幸、三石 初雄)</div> 第5回：【評価方法】 学習評価の3観点である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を理解して、学習指導案を作成するための学びが見える評価方法を考える。 <div style="text-align: right;">(担当：富田 俊幸、三石 初雄)</div> 第6回：【学習指導案の作成】 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 <div style="text-align: right;">(担当：富田 俊幸、三石 初雄)</div> 第7回：【研究授業の実施と改善】 研究授業の実施と、授業参観の要点と、その後の授業研修の概			

要、授業の改善と授業のまとめをする。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

第8回：【学習指導案の発表】作成した学習指導案を発表して、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点で話し合う。

(担当：富田 俊幸、三石 初雄)

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）、『教育の方法と技術』稲垣 忠、北大路書房

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

- 課題レポート 総合点の40% ○ 日常の課題への取り組み 総合点の20%
- 学習指導案の作成 総合点の40%

授業科目名： 生徒指導と教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土井 雅弘、佐久間 祐子、 寺本 妙子 担当形態：クラス分け・複数・ オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導については、その理念や基本的原理および具体的な方法を理解するとともに、児童生徒の問題行動とその把握、指導を具体的な事例や実践から学び、生徒指導に情熱をもってあたる上で必要な実践的な能力を身に付ける。</p> <p>教育相談については、その理念として、自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動であることを理解する。児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業において生徒指導では、児童生徒理解にベースをおきつつ、生徒指導の意義と方法等を学びながら実践的スキルを獲得していくことを目指す。講義やグループディスカッション等を通じて集団指導と個別指導の重要性とその方法等を理解し、不登校やいじめ、暴力行為等の問題行動について多面的に考究する。</p> <p>教育相談では、児童生徒理解に基づき、基本的な事項や最新のテーマを扱いつつ、教育相談の意義、理論、方法、展開について学びながら実践的スキルを獲得していくことを目指す。講義や演習を交えて、児童生徒の不応や問題行動の意味やそのシグナルへの気づき、学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性について理解を深める。受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法の理解に基づき、教育相談の具体的な進め方や組織的な取り組み、地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の必要性についても理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程における生徒指導の位置付けと共に、生徒指導の意義と役割を理解する。 (担当：土井 雅弘)</p> <p>第2回：共感的な人間関係の育成、自己存在感が育まれる場や機会の設定、自己決定の場を与えるという生徒指導の3機能の大切さを理解し、それを視点に学級経営及び各教科、道徳、特別活動等との関連を考察し、生徒指導の必要性と重要性を理解する。 (担当：土井 雅弘)</p>			

第3回：生徒指導と特別活動の連動する関係を理解すると共に、集団指導と個別指導の方法原理を理解し、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成をする生徒指導の在り方を考える。

(担当：土井 雅弘)

第4回：学級担任、教科担任等の生徒指導上の役割と生徒指導体制及び教育相談体制の基本的な考え方、関係機関との連携の在り方等を理解し、学校の指導方針等に基づいた組織的、機動的な取組に

ついて考える。(担当：土井 雅弘)

第5回：事例等を基に校則、懲戒、体罰について考え、基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成を図る具体的な生徒指導の在り方を考える。

(担当：土井 雅弘)

第6回：事例等を基にいじめ、不登校等の解消、改善を図る具体的な生徒指導の在り方を考える。

(担当：土井 雅弘)

第7回：事例等を基にインターネットや性に関する課題等に向き合い指導の充実を図る具体的な生徒指導の在り方を考える。

(担当：土井 雅弘)

第8回：1回から7回までの授業をまとめ生徒指導の重要性を深めるとともに、個別への対応・指導の必要性の意識を一層高め、教育相談の意義と役割、その重要性を理解する。

(担当：土井 雅弘、佐久間 祐子、寺本 妙子)

第9回：学校における教育相談の意義と課題について理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念について理解を深める。

(担当：佐久間 祐子、寺本 妙子)

第10回：教育相談の方法① 児童生徒の不応答や問題行動の意味、そのシグナルについて理解を深める。演習を交えて、児童生徒のシグナルに気づき把握する方法について体験的に理解を深める。

(担当：佐久間 祐子、寺本 妙子)

第11回：教育相談の方法② 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性について理解を深める。演習を交えて、カウンセリングマインドの具体について体験的に理解を深める。

(担当：佐久間 祐子、寺本 妙子)

第12回：教育相談の方法③ 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について理解する。演習を交えて、受容・傾聴・共感的理解の具体について体験的に理解を深める。

(担当：佐久間 祐子、寺本 妙子)

第13回：教育相談の展開① 職種や校務分掌に応じて、児童生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について理解する。教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性について理解を深める。事例検討を交えて、具体的な実践について理解を深める。

(担当：佐久間 祐子)

第14回：教育相談の展開② いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、児童生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方について理解する。地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について理解を深める。地域連携の具体的事例を取り上げ、演習を交えて実践的課題における多面的理解を深める。

(担当：寺本 妙子)

第15回：9回から14回までの授業をふりかえり、教育相談の意義、理論、方法、展開について総括する。

(担当：佐久間 祐子、寺本妙子)

定期試験

テキスト

『生徒指導提要』（文部科学省）

「教育相談」：津川律子、山口義枝、北村世都 編、弘文堂、2015

参考書・参考資料等

必要に応じて随時参考資料等を提供する。

学生に対する評価

平常点25%、レポート25%、定期試験50%に基づき、総合的に成績評価を行う。

授業科目名： 進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 寺本 妙子 担当形態：クラス分け・単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>進路指導、および、それを包含するキャリア教育の意義、理論と方法について包括的に理解する。進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、進路指導とキャリア教育の理論的背景と基本的事項、その意義と方法について理解する。次に、進路指導とキャリア教育における全体指導であるガイダンスと、個別の対応であるカウンセリングについて基本的事項を理解したうえで、事例検討や演習を通じて理解を深める。最後に、キャリア教育の指導計画案を作成し、進路指導とキャリア教育について総合的・包括的に理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の目的と内容、進め方等についてガイダンスをおこなう。進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、教育課程における位置付けについて理解を深める。</p> <p>第2回 進路指導・キャリア教育の意義と原理：進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制、および、家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示し、意見交換をおこなう。</p> <p>第3回 ガイダンスとしての指導①：全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義、および、ガイダンスを生かした進路指導・キャリア教育の意義・留意点について理解を深める。</p> <p>第4回 ガイダンスとしての指導②：進路指導・キャリア教育の指導計画の具体的な事例について検討し、キャリア教育の視点を導入したカリキュラム・マネジメント、および、ガイダンスの在り方について理解を深める。</p> <p>第5回 カウンセリングとしての指導①：児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方について理解する。生涯を通じたキャリア形成の視</p>			

<p>点に立つ自己評価、ポートフォリオの具体的活用、および、児童生徒の個別の課題に向き合うキャリア・カウンセリング（基礎と実践）について理解を深める。</p> <p>第6回 カウンセリングとしての指導②：ポートフォリオの具体的な事例について検討し、生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、および、ポートフォリオの活用の在り方について理解を深める。</p> <p>第7回 カウンセリングとしての指導③：キャリア・カウンセリングの演習を通じて、基礎的な考え方と実践方法について理解を深める。</p> <p>第8回 本授業における学びを振り返り、キャリア教育の指導計画案を作成する。</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p> <p>小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業の取組（グループワーク、発表）（40%）、ワークシート（20%）、レポート（40%）</p>

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 [小・中・高]	単位数：2単位	担当教員名：坂井 俊樹、土井 雅弘			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20人前後（6クラスで実施）					
教員の連携・協力体制 生徒指導の事例研究、模擬授業等の際には、教科専門担当教員等を授業に招聘してより具体的に実践的な授業にしていく。また、第15回の授業におけるまとめの際には、学校の現職教員等を招聘して指導を受ける機会を設ける。					
授業のテーマ及び到達目標 免許法施行規則に定める「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」について、これまでの学習内容を振り返り改めてその定着を図るとともに、学校教育の意義・課題やそこにおける教員の職務・責任・使命などについて主体的に考察し、問題意識の深化に努める。演習を通じて教員としての最小限必要な資質能力を身につけ、引き続き自律的・継続的にそれを研鑽し発展させていくための基礎を獲得することを目標とする。					
授業の概要 担当教員の講義、学校ボランティア体験、学校インタビュー等をふまえた学生による報告、討論、ロールプレイング、模擬授業など多様な学習方法、より実践的な演習を通して、学校教育の意義・課題や小学校及び中学校、高等学校教員の職務・責任・使命、また、その主たる業務である授業（ICTの積極的な活用など）についてさまざまな角度から考察し、改めて理解と問題意識を深めていく。なお、授業実施に当たっては、学校の現職教員等や学内の教科専門担当教員等の参加・協力を依頼し、具体的で実践的な授業にしていく。					
授業計画 第1回：これまでの教職課程科目の履修履歴を確認するとともに、教育実習、介護体験等を振り返って、教師としての自分の成果と課題を明らかにし、今後の学修のめあてを立てる。 第2回：教職の意義、教員の役割と職務内容を再考する。 第3回：小学校及び中学校、高等学校における学級経営についてグループ討議等を通して考える。 第4回：小学校及び中学校、高等学校における学級経営について具体的な案を作成し、発表し合い、検討することで学級経営及び学級経営のポイントとは何かを再考する。 第5回：生徒指導（1）いじめの対応 具体的な事例を取り上げながら、指導上の基本事項を学び、ロールプレイングや討議を通していじめの対応について考える。 第6回：生徒指導（2）不登校の対応 具体的な事例を取り上げながら、指導上の基本事項を学び、ロールプレイングや討議を通して不登校の対応について考える。 第7回：生徒指導（3）特別な支援を必要とする生徒の対応 具体的な事例を取り上げながら、指導上の基本事項を学び、ロールプレイングや討議を通して特別な支援を必要とする児童の対応について考える。 第8回：学校組織・運営について、教職員の服務、教職員組織、校務分掌、安全管理、家庭・地					

域との連携を取り上げ、講義やグループ討議等を通して理解を深めていく。

第9回：小学校及び中学校、高等学校における授業について、授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」をもとに再考するとともに、ICTの活用を積極的に且つ効果的に取り入れた授業について考える。

第10回：模擬授業① 各教科及び専門教科（国語科，社会科，外国語科）の学習指導案を作成し，効果的な学習指導過程に視点をおいて模擬授業、協議を行い，成果と課題を明らかにして改善案を検討する。

第11回：模擬授業② 各教科及び専門教科（国語科，社会科，外国語科）の学習指導案を作成し，発問・指示，ノートを活用，ICTの活用等の在り方に視点をおいて模擬授業，協議を行い，成果と課題を明らかにして改善案を検討する。

第12回：模擬授業③ 国語科，社会科，外国語科の学習指導案を作成し，評価の在り方等に視点において模擬授業，協議を行い，成果と課題を明らかにして改善案を検討する。

第13回：模擬授業④ 道徳科，特別活動等の学習指導案を作成し，効果的な学習指導過程に視点をおいて模擬授業、協議を行い，成果と課題を明らかにして改善案を検討する。

第14回：模擬授業⑤ 道徳科，特別活動等の学習指導案を作成し，発問・指示，ノートを活用，ICTの活用，評価等の在り方に視点をおいて模擬授業、協議を行い，成果と課題を明らかにして改善案を検討する。

第15回：まとめ 学校現場の課題等や新採用教員に期待される事柄を理解し、これまで全14回の授業を振り返り履修内容を再確認しつつ、自己課題を省察しまとめる。

テキスト

- 『小学校学習指導要領』（文部科学省）
- 『中学校学習指導要領』（文部科学省）
- 『高等学校学習指導要領』（文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて随時参考資料等を提供する。

学生に対する評価

- 1 各回の演習における課題作業の成果，討論，プレゼンテーション，模擬授業の成果（50%）
- 2 それぞれの教員免許状科目（小学校全科，国語科，社会科，外国語科）の教科の知識（50%）以上を勘案し総合的に評価する。